

和漢
今

傳中益朝本

萬寶金書

一

上

目錄五

名畫自上古至唐宋

凡百三十五人

傳紀常文





本朝書風傳



合口類記書盡

一 卷

本朝書風傳目錄

- 一 聖徳太子
- 二 弘法大師
- 三 菅原相
- 四 大愚居士
- 五 百瀬川成
- 六 紀金船
- 七 紀金持
- 八 巨勢金船
- 九 小野篁
- 十 巨勢金船
- 十一 巨勢金船
- 十二 巨勢金船
- 十三 巨勢金船
- 十四 巨勢金船
- 十五 巨勢金船
- 十六 巨勢金船
- 十七 巨勢金船
- 十八 巨勢金船
- 十九 巨勢金船
- 二十 巨勢金船
- 二十一 巨勢金船
- 二十二 巨勢金船
- 二十三 巨勢金船
- 二十四 巨勢金船
- 二十五 巨勢金船
- 二十六 巨勢金船
- 二十七 巨勢金船
- 二十八 巨勢金船
- 二十九 巨勢金船
- 三十 巨勢金船
- 三十一 巨勢金船
- 三十二 巨勢金船
- 三十三 巨勢金船
- 三十四 巨勢金船
- 三十五 巨勢金船
- 三十六 巨勢金船
- 三十七 巨勢金船
- 三十八 巨勢金船
- 三十九 巨勢金船
- 四十 巨勢金船
- 四十一 巨勢金船
- 四十二 巨勢金船
- 四十三 巨勢金船
- 四十四 巨勢金船
- 四十五 巨勢金船
- 四十六 巨勢金船
- 四十七 巨勢金船
- 四十八 巨勢金船
- 四十九 巨勢金船
- 五十 巨勢金船
- 五十一 巨勢金船
- 五十二 巨勢金船
- 五十三 巨勢金船
- 五十四 巨勢金船
- 五十五 巨勢金船
- 五十六 巨勢金船
- 五十七 巨勢金船
- 五十八 巨勢金船
- 五十九 巨勢金船
- 六十 巨勢金船
- 六十一 巨勢金船
- 六十二 巨勢金船
- 六十三 巨勢金船
- 六十四 巨勢金船
- 六十五 巨勢金船
- 六十六 巨勢金船
- 六十七 巨勢金船
- 六十八 巨勢金船
- 六十九 巨勢金船
- 七十 巨勢金船
- 七十一 巨勢金船
- 七十二 巨勢金船
- 七十三 巨勢金船
- 七十四 巨勢金船
- 七十五 巨勢金船
- 七十六 巨勢金船
- 七十七 巨勢金船
- 七十八 巨勢金船
- 七十九 巨勢金船
- 八十 巨勢金船
- 八十一 巨勢金船
- 八十二 巨勢金船
- 八十三 巨勢金船
- 八十四 巨勢金船
- 八十五 巨勢金船
- 八十六 巨勢金船
- 八十七 巨勢金船
- 八十八 巨勢金船
- 八十九 巨勢金船
- 九十 巨勢金船
- 九十一 巨勢金船
- 九十二 巨勢金船
- 九十三 巨勢金船
- 九十四 巨勢金船
- 九十五 巨勢金船
- 九十六 巨勢金船
- 九十七 巨勢金船
- 九十八 巨勢金船
- 九十九 巨勢金船
- 一百 巨勢金船

本朝書風傳

上



九三 康房

至去作...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

暗 道加笑
 暗 然富
 暗 如圭
 暗 僧月位
 暗 号女
 暗 傍揚海
 暗 塞白
 暗 僧号套
 暗 号悦
 暗 惠林
 暗 茂因
 暗 象先
 暗 即梅
 暗 殊賢
 暗 富
 暗 嘉外
 暗 友素
 暗 浪松
 暗 曹洞
 暗 宗自
 暗 李竹
 暗 梅軒
 暗 似牧
 暗 藝体
 暗 御唐
 暗 昌把
 暗 智林
 暗 月揚
 暗 長柳
 暗 東梅附宗

暗 号
 暗 流湯
 暗 号耕
 暗 教潘
 暗 揚富
 暗 牛香
 暗 野文
 暗 号安
 暗 自當
 暗 号傳
 暗 完山
 暗 日東孫部
 暗 正殿
 暗 源五
 暗 宗院

暗 道加笑
 暗 然富
 暗 如圭
 暗 僧月位
 暗 号女
 暗 傍揚海
 暗 塞白
 暗 僧号套
 暗 号悦
 暗 惠林
 暗 茂因
 暗 象先
 暗 即梅
 暗 殊賢
 暗 富
 暗 嘉外

暗 号
 暗 流湯
 暗 号耕
 暗 教潘
 暗 揚富
 暗 牛香
 暗 野文
 暗 号安
 暗 自當
 暗 号傳
 暗 完山
 暗 日東孫部
 暗 正殿
 暗 源五
 暗 宗院

音 采房

音 可本

音 等牧

音 性安

音 房師智

音 岩村

音 送恩

音 石銘

音 侯玄

音 昌安

音 家茂

音 細川久詳

音 醉雲秋桃林

音 猶野心伝

音 康西堂

音 甫躬

音 持本

音 宗珊

音 希慈

音 秀坊

音 大集

音 文孫

音 智怡

音 永伝

音 細川後牧

專門家多寡目錄

音 猶聖元伝 古法眼

音 猶聖雅示助

音 故人土佐氏女

音 玄也

音 猶聖貴松

音 猶聖系珠

音 猶聖美琴

音 猶聖玉樂

音 金玉伝

音 猶聖伝美

音 猶聖水徳

音 美伝

音 体白子

音 猶聖孝伝

音 猶聖尚伝

音 子不

音 元俊

音 猶聖國松

音 猶聖松菜

音 宗用法眼

音 能伝

音 猶聖季粉

音 承美

音 賢妙

音 壽卜

音 猶聖元忠

音 猶聖系秀

音 猶聖源七

音 猶聖光伝

音 猶聖守伝 探出

音 猶聖水伝

音 子兼

音 元俊

精刻トモノボ 精叙チカケ 精政モリ 精肉タク 精祖ムラ 精道ミチ 精興キョウ 精與ヨイ 精祐ユウ 精至シ 精九ク 精海カイ 精木キ 精内チ 精法ホウ

精時トキ 精益チカ 精常トコ 精肉タク 精外ゲ 精壽シユウ 精興キョウ 精宮ミヤ 精古コ 精政セイ 精弘コウ 精氏ウヂ 精海カイ 精樹ジュ 精法ホウ

雜傳

精法ホウ 精經キョウ 精救キウ 精傳デン 精傷ウケ 精游ユウ 精傍ホウ 精作サク 精全ケン 精江カウ 精傳デン 精行カウ 精赤セツ 精化カ 精靈レイ

精伯ハク 精古コ 精君クニ 精僧ソウ 精額ガク 精宗ソウ 精系ケイ 精心シン 精至シ 精定テイ 精教キョウ 精客キヤク 精山サン 精林リン

四 僧妻美
 三 雲心
 二 宗用
 一 孤月
 八 守教又兼
 七 守教又兼
 六 守教又兼
 五 守教又兼
 四 守教又兼
 三 守教又兼
 二 守教又兼
 一 守教又兼
 十 守教又兼
 九 守教又兼
 八 守教又兼
 七 守教又兼
 六 守教又兼
 五 守教又兼
 四 守教又兼
 三 守教又兼
 二 守教又兼
 一 守教又兼

四 僧智海
 三 僧智海
 二 僧智海
 一 僧智海
 十 僧智海
 九 僧智海
 八 僧智海
 七 僧智海
 六 僧智海
 五 僧智海
 四 僧智海
 三 僧智海
 二 僧智海
 一 僧智海

右日本後傳目錄終

待野家累世所用法目録

- 一 山水屋法之序
- 二 人物屋法之序
- 三 花名屋法之序
- 四 和屋布垂之法式
- 五 壁障屋極之法式

- 六 屏風^{ビョウブ}・床^{トコ}・障子^{シヨウジ}・書^{シヤウ}・画^{ガク}之法^{ホフ}式^{シキ}
- 七 榻^タノ之^ノ器^キ式^{シキ}
- 八 柳^{ヤナギ}障^{シヨウ}子^ジ之^ノ器^キ式^{シキ}
- 九 麻^{アサ}西^{セイ}之^ノ画^{ガク}法^{ホフ}
- 十 卷^{マク}牒^{ダク}之^ノ画^{ガク}法^{ホフ}
- 十一 押^{オシ}絵^エ
- 十二 硯^{スズリ}之^ノ形^{ガタ}・墨^{スミ}・筆^{フデ}・紙^{カミ}・絵^エ・絹^{キヌ}
- 十三 弦^エ之^ノ具^グ之^ノ器^キ式^{シキ}
- 十四 同^{ドウ}洞^{ドウ}合^{ガフ}絵^エ之^ノ器^キ式^{シキ}

凡^ニ廿^ニ種^ニ

本^{ホン}物^{テウ}之^ノ画^{ガク}之^ノ下^カ傳^{デン}

聖^{シヤウ}德^{トク}太^{タイ}子^シ 自^ジ画^{ガク}乃^ノ像^{ゾウ}一^{イツ}百^{ヒャク}

雅^ヤ波^ハ天^{テン}王^{ワウ}之^ノ器^キ式^{シキ} 大^{ダイ}々^{ゾクゾク}常^{ジョウ}人^{ニン}之^ノ器^キ式^{シキ}

心^{シン}面^{メン}而^ニて安^{アン}座^ザ一^{イツ}画^{ガク}

大^{ダイ}方^{ホウ}之^ノ画^{ガク}之^ノ器^キ式^{シキ} 有^{アル}之^ノ器^キ式^{シキ}

其^シ之^ノ器^キ式^{シキ} 亦^モ有^{アル}之^ノ器^キ式^{シキ}

凡^ニ廿^ニ種^ニ



弘法大師 非仏非神の品像を
 又しく本を以て用ひて梵相を
 以て像あり或は難を以てこれあり
 今も唯山ふ山の屏風を以て
 經を以て書きしるに百地を以て
 とありしるに以て像の體とありしる
 小の像と用ひて種種の像を以て
 智ふるに吾も長一行を以て
 自ら此像も八品とありしる今も
 乃亦あり



三 長相 天像天非乃あり
 世に自畫れ像と稱する物も感像
 教を以て之を勢凡ふありしる
 されたる像もこれありしる
 亦何れ能くするに海ありしる
 又又持列とありしる社の袖あり
 物ありしるもこれありしる



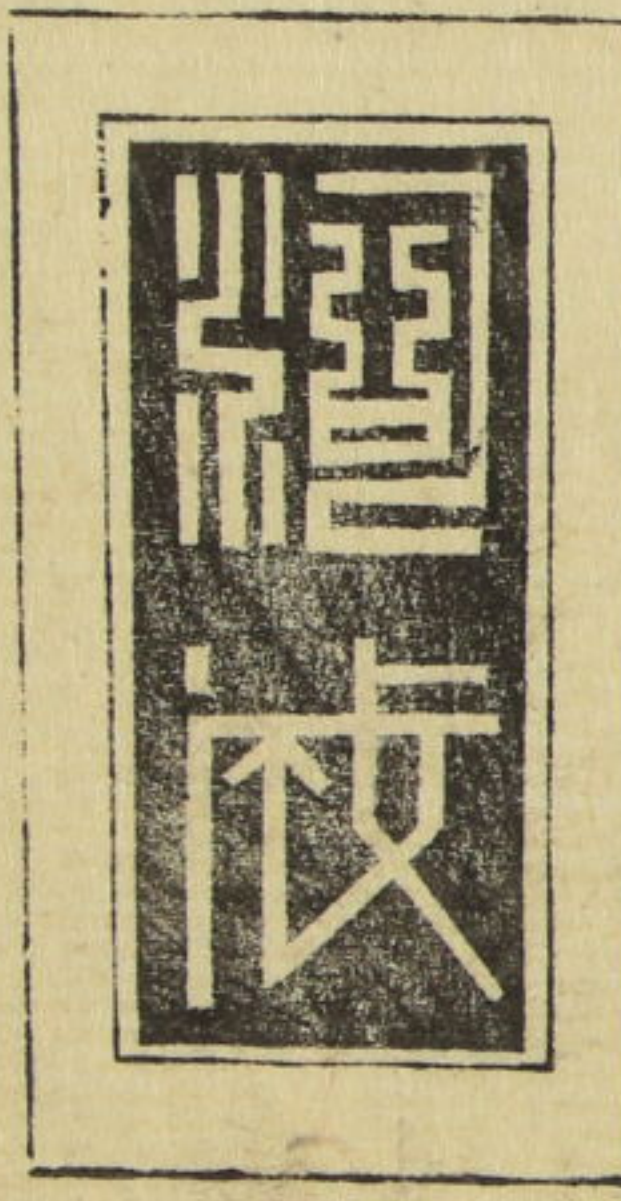
四 大恩恩寸 畫像亦云権畏天皇
 此世に以て此像を以て
 男能く之を以て此世に

百濟河成 本姓の家を移す
 百濟乃分り申く姓瓜百濟改
 む身男小長く強引と引大向
 三年小長とある又うく家屋を
 移す寫す正人地山川草木を
 自家自うくせざるがごとし
 美申申く或人とも口は移さず
 唯も人信志乃知と見あす
 河成一紙とありくも移さず
 五 龍を移すめとあり

百濟河成 本姓の家を移す
 百濟乃分り申く姓瓜百濟改
 む身男小長く強引と引大向
 三年小長とある又うく家屋を
 移す寫す正人地山川草木を
 自家自うくせざるがごとし
 美申申く或人とも口は移さず
 唯も人信志乃知と見あす
 河成一紙とありくも移さず

とありとあるて見せられたり
 後とのりくも人と見たり
 之めん後世に遺るるもの
 と河成小長物に強引と引大向
 信志乃分り申く姓瓜百濟改
 乃肉逆と知友なり時とあり
 己が技藝とありとあり時の人
 人と移すこれとありとあり
 めく一産れ真と信せしとあり
 文徳と美稱小長とあり

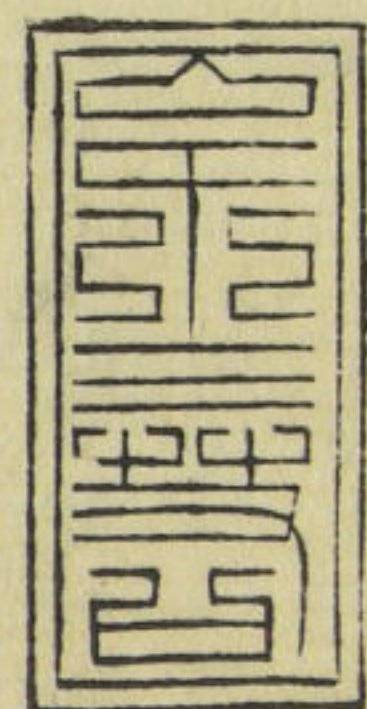
百濟河成
 卯文



紀八五君
 紀あり 赤保 秀天子 新日

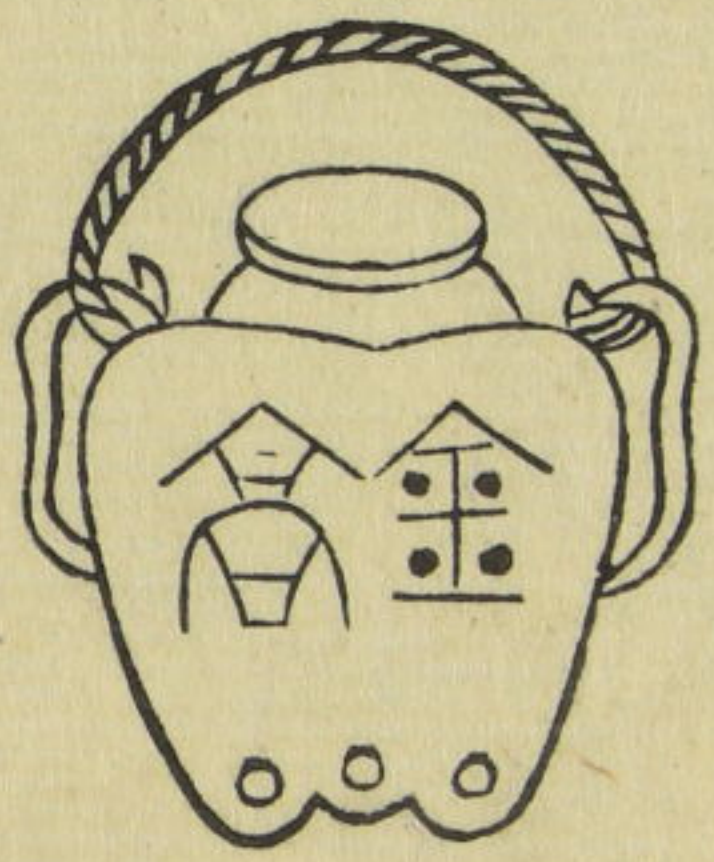
新と号す仁明天皇の御紀四年の
清涼殿乃より瓜あがけりし御く大
納言のころに縁を奉と八百八十
四年に

金若印文



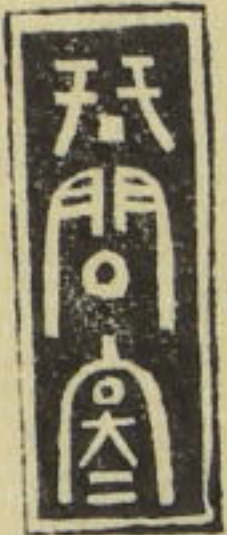
紀金高キカ子タカ

印文



紀金持キカチモチ

印文



小野コノ

博子ハカ放カク少カク之カク多カク

能ノとトぬヌ之シ後コもモ又マ新ニふフ之シ新ニ

古今乃後士あり

文勢コト力セ全カ思カ

徳和帝より延

喜帝と又の仕り大納言

乃の茶運おとあひし仁和

又の巻履有れし一東西の像

ふ小受をこれ像とあけりあまの

山とあり又よくあまの像とあ

えり古史おんころ仁平小秋

奠とけりり先聖先師九哲乃

像の像を置成しとあ後とる也

或の像を小納言置るは秋と

秋戸名にせし秋花とくも

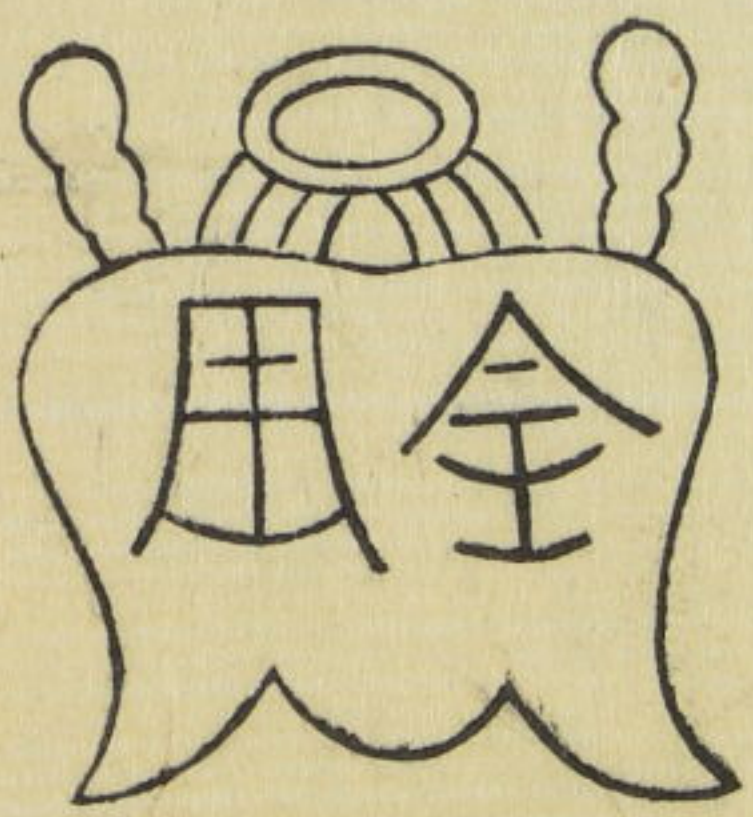
てこれと懸繩とくも奇とあ

たり又水宮小納言置るは秋

とる田るはせく瑞苗とくも里入

ともぬれどくちくとも舟とやり
 色世は後物とあり賢なるは後子と
 急ぐ時刺髪小僧髪と並り後髪
 小中冠とついでさかちとあつて
 宸殿ふとの毛とあつてつたりの
 傳字のともまりくとも魚法記
 り歌とべー九そあつく西の儀
 ぢりくともまねりともお見よ
 つも弘まるとあつてとも孫方紙
 危る小縁らるとともあかしく
 巨勢カ金世 卯文

州火天子



又勢おん 又お覧と去家女正
 林と寛平年中乃入金屋子
 あり後波お目後後下源氏法
 合乃雪小竹丸乃舞のり
 又勢おんこれとあつて紀斐と

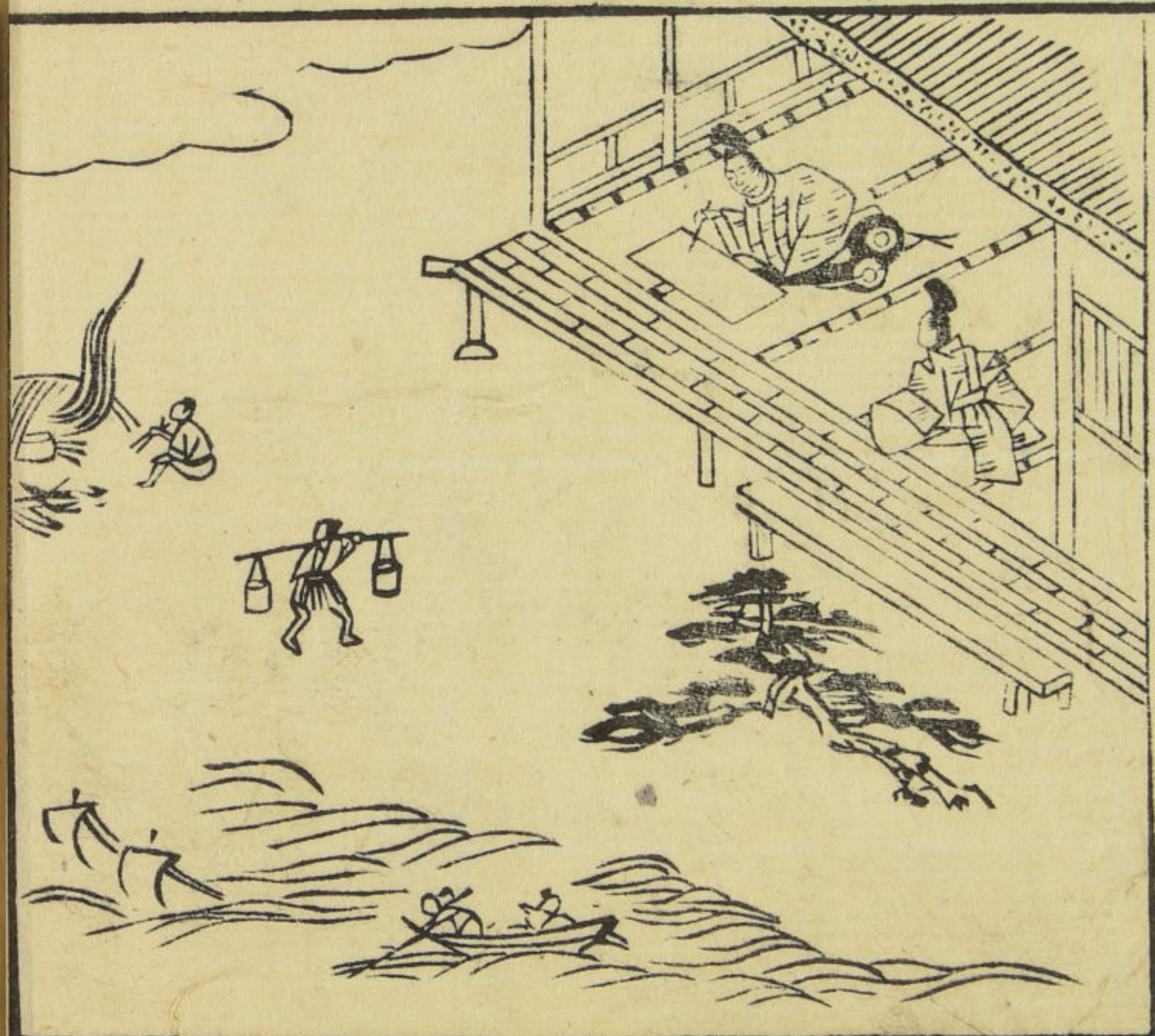
又勢おん 又お覧と去家女正
 金屋子 商人とあつて
 業と信ぐ天應乃信厚同小あつ
 りお書めとつりあつて一雙厚
 風とらん平の師乃大居とれと
 おりんとすもつらとつてあつて
 とれと見ぢとつてあつてあつて
 があつてあつてあつてあつて
 紙縫れるとつてあつてあつて
 といつてあつてあつてあつて
 といつてあつてあつてあつて

本朝魚印
上
七

とあり常例ぐるりなる居保又兼記
物々あり小澤ふわり

飛鳥部常則

印文



子枝 世姓依あすすふるも澤

八りあす常例同河の登原あり

俗興あ 三井もふ住と名居原之

成光 姓氏とあすす後興あ

とあすり家院乃子小鶴とあ

うたえれがせしめ鶴ありてこれと

任徳入道 初はよりあすす

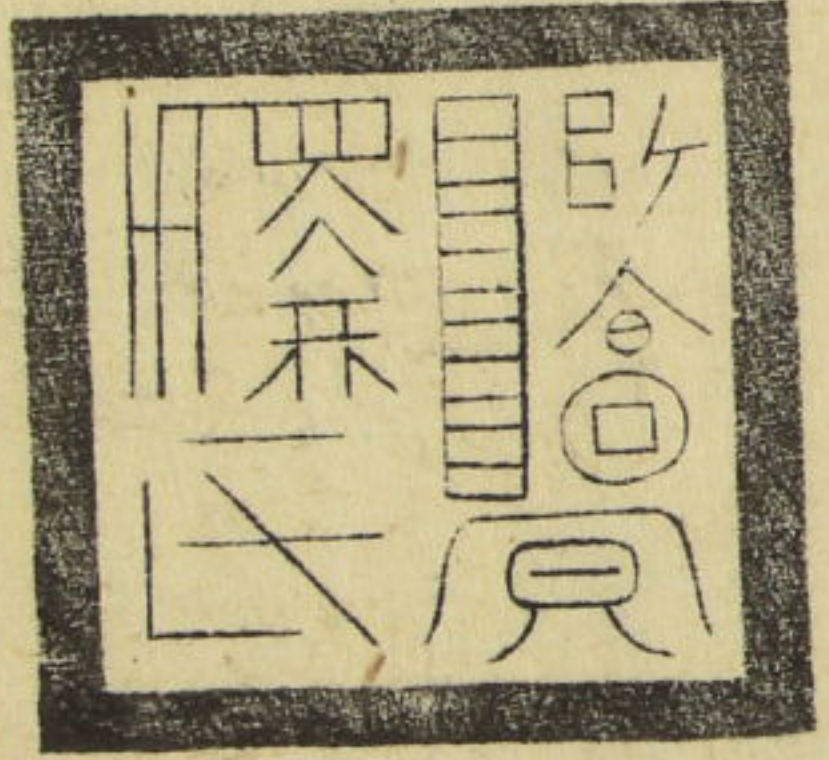


て書々れりて又これと悦ぶず
或時被れりて去る事とて中門
乃齋堂小多勅乃徳と云たれ
かんと人これと悦ぶ長すそれなり
世又もゆりていすしあつらひ
養原なる房 名取なり元新元
六月十日修理を定むる事あり
烟鏡乃喜みく入丸徳と悦ぶ



くろにき屋とまのり人丸徳
畫一めり大孝賢教光と上
小賢成らふは是像を不契何也
おのりりいなる房ハ栗田実白片疎
かりとよりこれの事教光に
今書聞集小入なり
世三 延元 三并ち乃傍なり後河原
刺と号す 花山院寛永年中
乃入丸系橋政伴と云乃縁なり

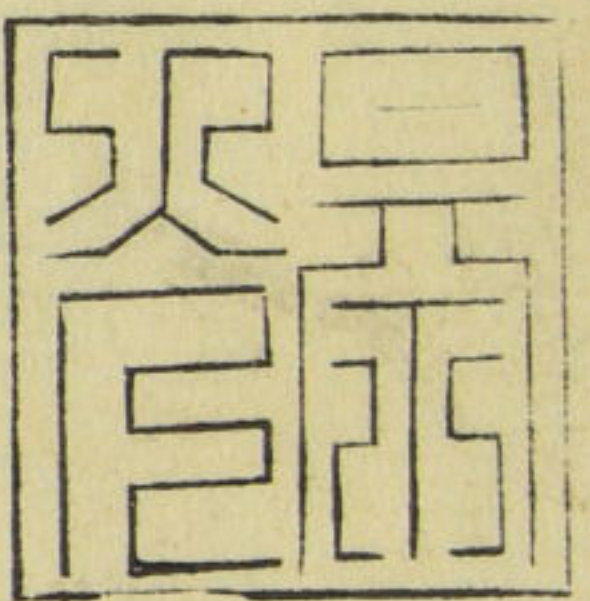
延元 印文



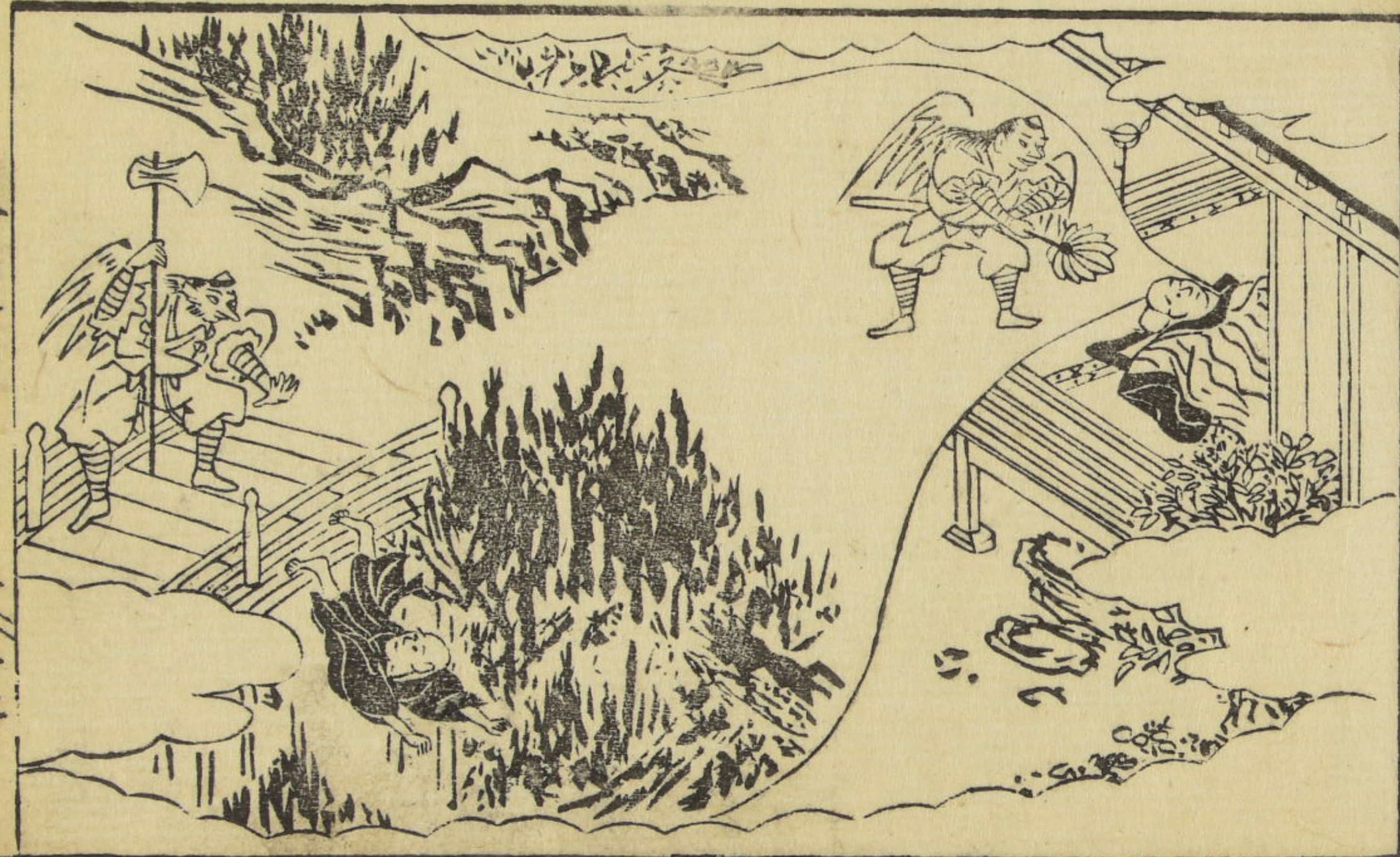
世三 基光 延元位上内通基光
ととより 後一系院寛仁年中

乃人川色左大信魚名之孫也

基光 印文



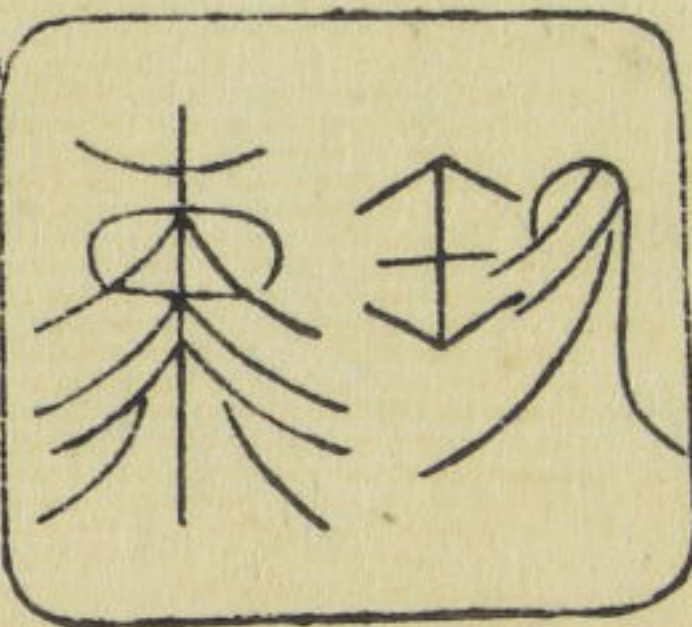
信於珍海 飛船を其後形は小
 後す重家と好あり田記外と
 と師之實信定海門は珍海と
 志く曼茶羅此品とわくしんを
 す珍海辯志と書りゆとんす
 ある新山神 珍海が愛ふあり
 珍海が愛ふあり有るるものとせあ
 て様とより遊居せり珍海愛
 免と尋ねた知れまんとこの是後
 けられる後とおふくみく



終ツ不フ死シせりとシ醜ウ醜ウたるルは
 文モン雅ニれレ後ノとスるルにシ法ホウとシ古コ乃
 同ドウのノとシ分ワりトすルにシ傳デン小コ記キせりト又マ云ク
 後シ米メ菴ヤウ院イン在シ慶ケイ年ネン中チュウ乃ノ人ニ
 赤ト大ダイ方ホウのノ已イ傳デン基キ光クワウ子シとシ三サン摩マ
 堂ドウ在シ存ゾン正テイ路ロ記キのノ来ライとシ云ク

珍海

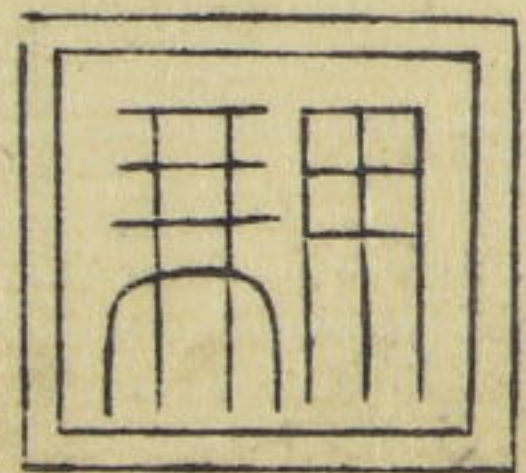
印文



延エン長チヤウ公コウ主シュ 翰カン墨ボク只シ魚イサ紙シ也ヤ
 人ニ乃ノ出シュツ雲ウン紙シとシらク書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノれト也ヤとシらクとシせりト一イチ點テン也ヤ
 乃ノれトとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ

乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ

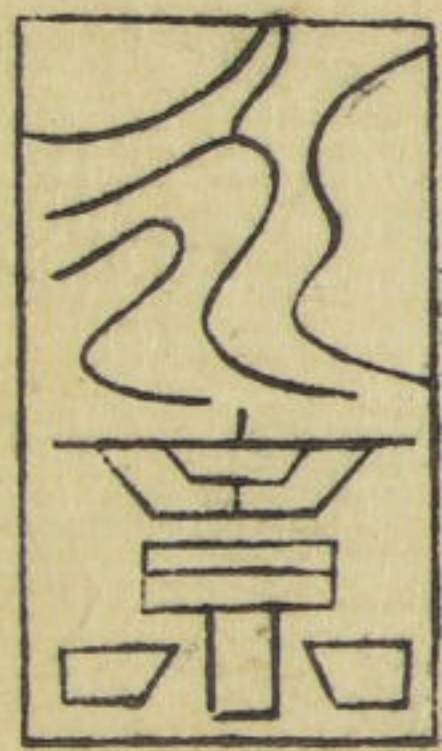
印文



永エイ意イ 傳デン死シ不フ死シせりト乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ
 乃ノ書ショ屋ウツ也ヤとシらク乃ノ書ショ屋ウツ也ヤ

永意

印文



延源園系 徳重乃寛和の上

乃彦乃七路の延源園系に和

志く性免其徳成かゝめあり

小を以て業成るる心程を成

めす時山とて地ありとあり

元亨 新書小まるとあり

平清盛 立世其時處乃行程と

おろし東乃まんごんとあり

聖山大徳小おまめありけり

延源七百餘も令別東又百も併

ありするの平家物とありあり

常明法平 性氏ととるの平家

とひくまんごん二家とあり

とて又も中々山金堂ありけり

東乃ありおま乃家ありあり

の常明が並みありのの平家物

心法平 性氏ととるの平家

冥白家おまお通云の家小中

門小徳成多にえれり曉あり

時成若るる教ありとありあり

平家乃女 性氏ととるの平家

中納言成絶小徳一投小花山乃

娘人あり杉候丹書とよくあり

実家直乃傳子小伴勢物とあり

性とありありとありありあり

平家乃女 性氏ととるの平家

四家院乃母病あり性小あり

好も性ひく源氏物とありあり

るゆとあがれまふるとまふり定む
乃照光記ふあり

後多倉院 多倉院乃皇子

守父親王あり皇弟と好まひて
使衣乃故衣とあがれまふるとまふ

照光記ふあり
後多倉院 多倉院中四皇子

乃奇と驚く百世小冠たり
乃女能ふましくして後もまふ

たふとかり今實乃神託松乃
下りあふ負る自後乃善傳并

宿願ありけり松の下が先祖
氏之いと皇女末子孫等々神獄

芒とす板ふけるゆありまふ
善賢も岡白其乃云 近赤実白基

美ふ乃子かりみ初ふま仕一三約

小振改一あひ美の七十回染あ
て豊一あ小善賢と号す又
くく女技小あまびと書石色
二ありとたぐ牛とあがれて糞
ぬとえ給たり

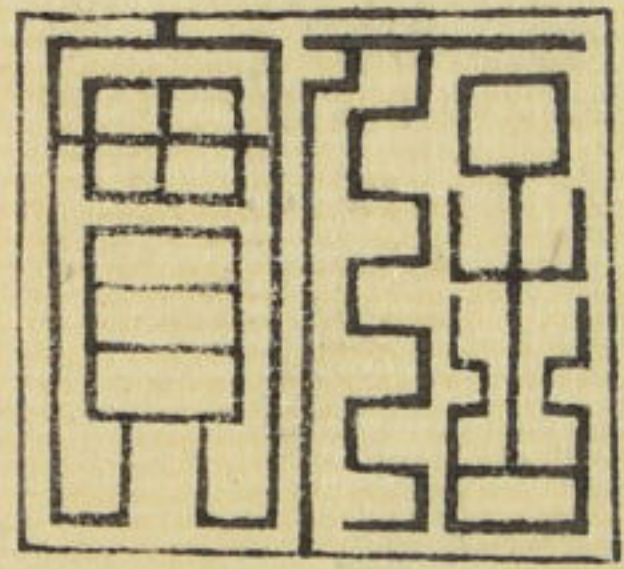


後系松振改高経云 九条皇子

美ふ乃子と去市門院ふはと時
小振改一善考と十八歳あり

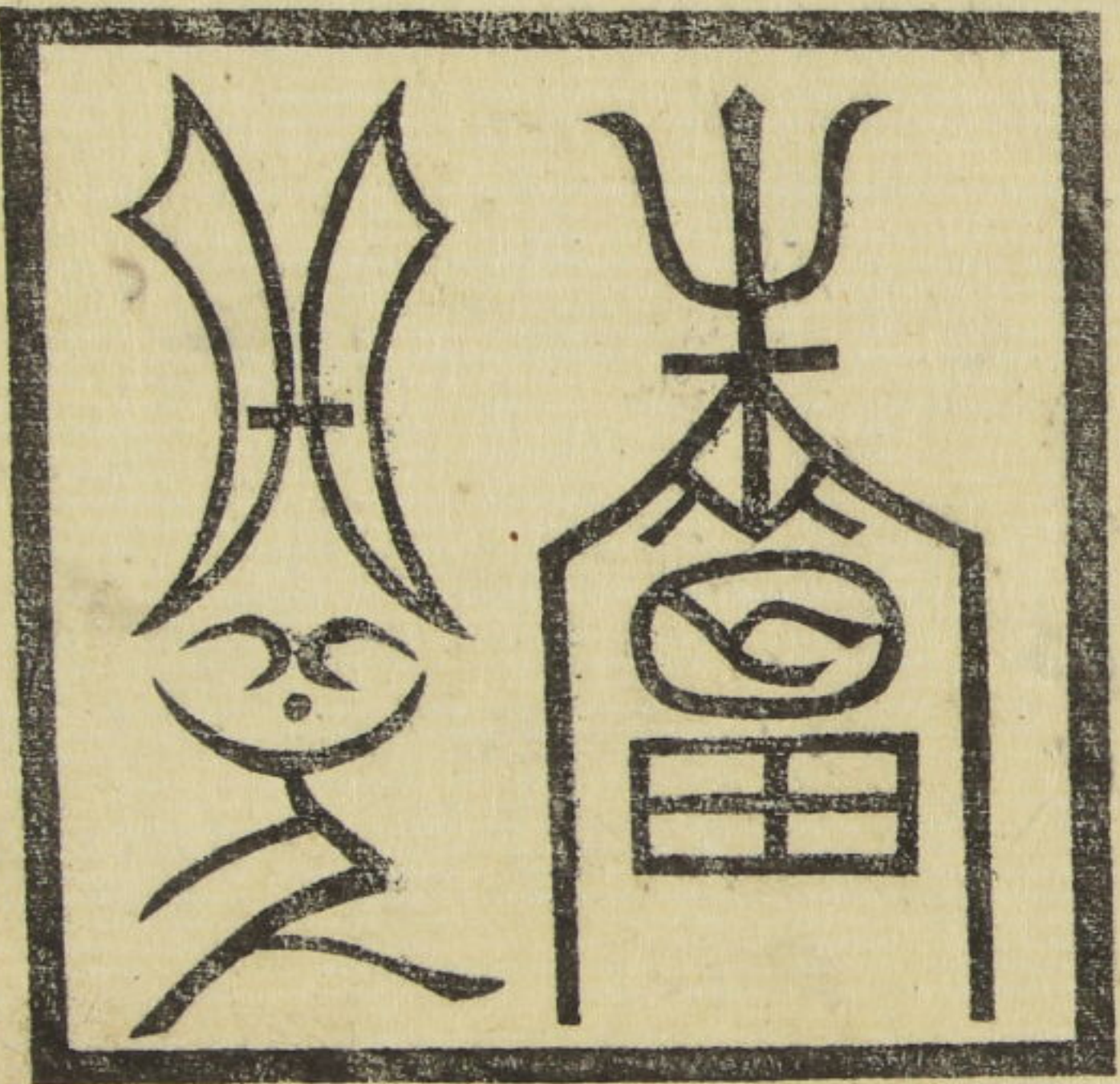
多岐の微とて一とて後を採院
 水奉乃乃乃松又先帝隠岐國遷
 幸乃長孫又順徳院中長孫の
 孫とてくく信實とてこれとて
 子とてけつて遷幸乃孫の今も
 弟乃内親堂ふつこりの中長孫
 乃孫武の九系長孫ふとて信實
 生ふ小首これ縁とてあつた
 如系法師乃く縁小親とて
 慈とてれとてあつた
 此の世とてる色かおとて西親
 何かりくふつとてあつた

信實
印文



反系隆能 姉小孫正又位下全
 反系小任と中納言正二位反系
 清隆乃子幼修乃庶流なり
 書乃乃各手強所乃始祖なり
 或曰清隆の子母の孫階乃乃
 女反系源平流負流奉中の人也

隆能
印文
繪所
始祖

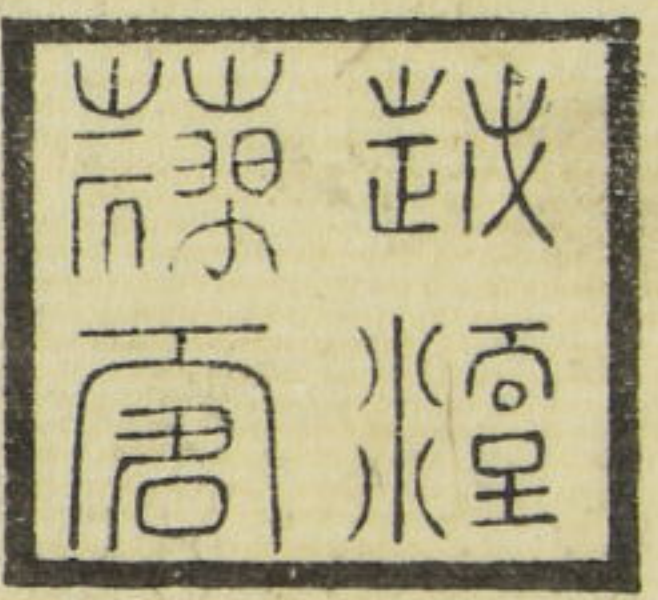


反系隆能 姉乃各孫正又位下全
 前孫所隆能乃子なり使前也

本朝登印
上九

但ど又^{イヨカミ}侍祿^シ中^ナ小^コ御^ミ下^シに
叙^シと^シ先^マ年^シ中^ナ務^ム少^シ猶^モ不^レ任^ズと
後^ノ所^トと^ル形^リ

隆親
印文



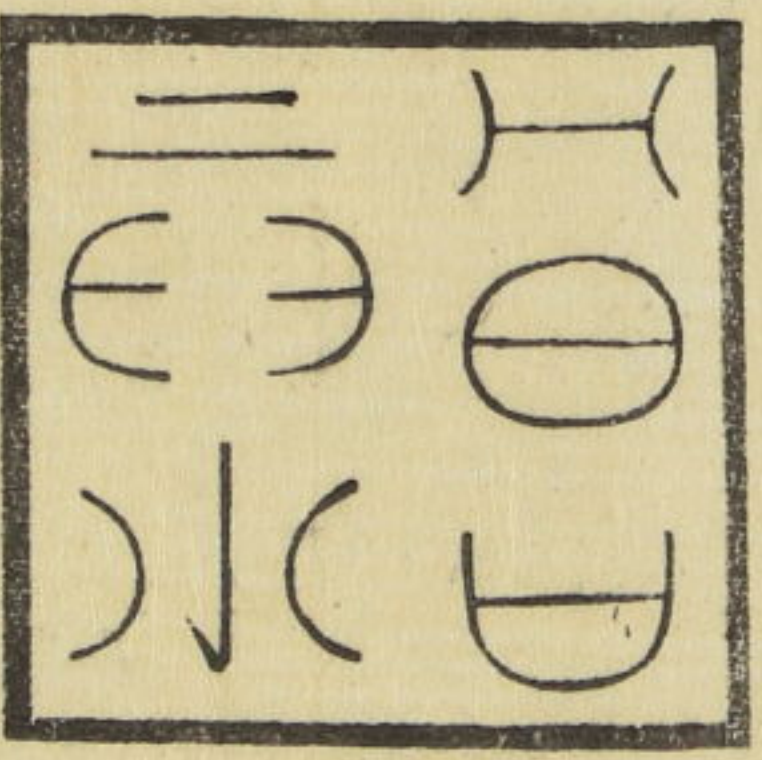
及^ニ系^ス以^テ智^ク 隆^カ親^カの^チ力^ヲ憑^リ之^ニ
以^テ廣^ク 去^リ依^ル者^ハ不^レ任^ズと^ル後^ノ所^トと^ル

行廣
印文



永^ク美^シ 五^ツ 右^ノ史^ヲ法^ヲ服^ス
永^ク秀^ク 異^ニ 禮^ヲ程^ヲ亮^ク 後^ノ所^ト頼^ル不^レ勿^ク
寂^ク寂^ク 異^ニ 無^ク於^テ少^ク猶^モ 後^ノ所^トと^ル
光^ク國^ク 異^ニ 彼^レ後^ト者^ハ不^レ任^ズと^ル後^ノ所^ト頼^ル
と^ル形^リ

光國
印文



長^カ隆^ク 後^ノ宇^ヲ及^ビ院^ヲ建^テ治^ス年^中
乃^チ人^ノ婦^ヲ小^シ法^ヲ服^ス使^テ閑^カ奇^ク人^ノ家^ヲ隆^ク
乃^チ擗^リ乃^チ異^ニ若^ク法^ヲ統^テ上^ニ小^シ親^ヲ乃^チ奉^ル
志^ハあり^キ書^ヲ付^ケの^ノ形^リの^ノ〜

正應元年十月中

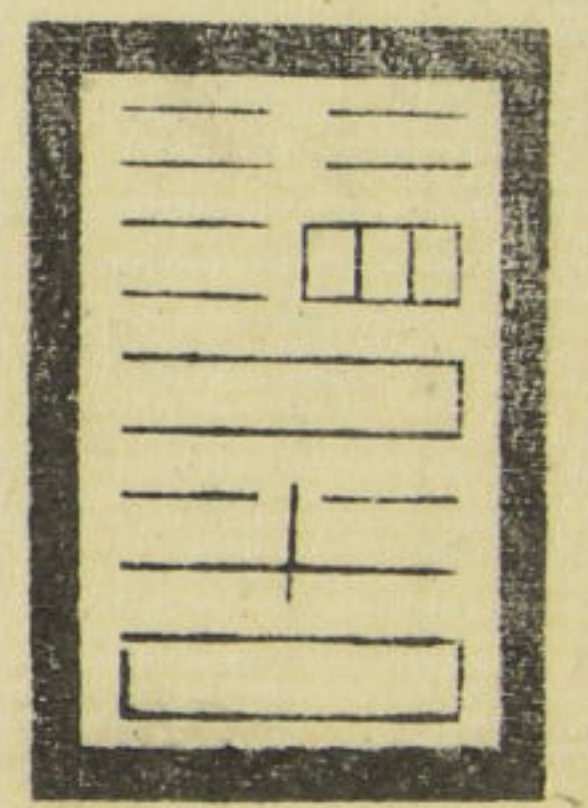
長隆筆

亦日

婦^ノ由^リ河^ノ本^ノ人^ノ隆^ク師^ト
法^ヲ依^テ使^ス万^ノ

本草魚部
上州三

瓜



弘安九年賞

示曰

法橋院流繪印

住持藤原長隆

巻之 金玉

平 右ノ字大あり瓜幅一寸餘あり
長素 紙前ちとす 長隆村系

五 瓜のりけい子あり
僧家位 徳屋あり 山法寺とあり

乃 宸親の家位がめとありとす
多 辨信正光融 西交た大臣

明 乃 孫源隆玉乃子あり 夫の
能 主法務乃ひ三井の長史大務

正 乃 醍醐小僧 多 辨信領事
故 小多辨乃信正とあり 龜島派

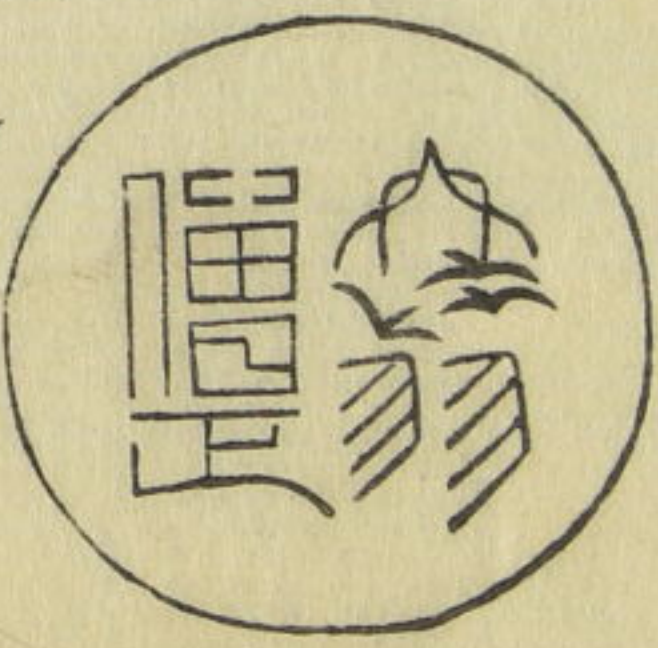
好 多 乃 和屋人抄とかく自
一 家とありて蔵とせあり

場 乃 或時あり 住持藤原
先 乃 貴納せり 是 聖主の

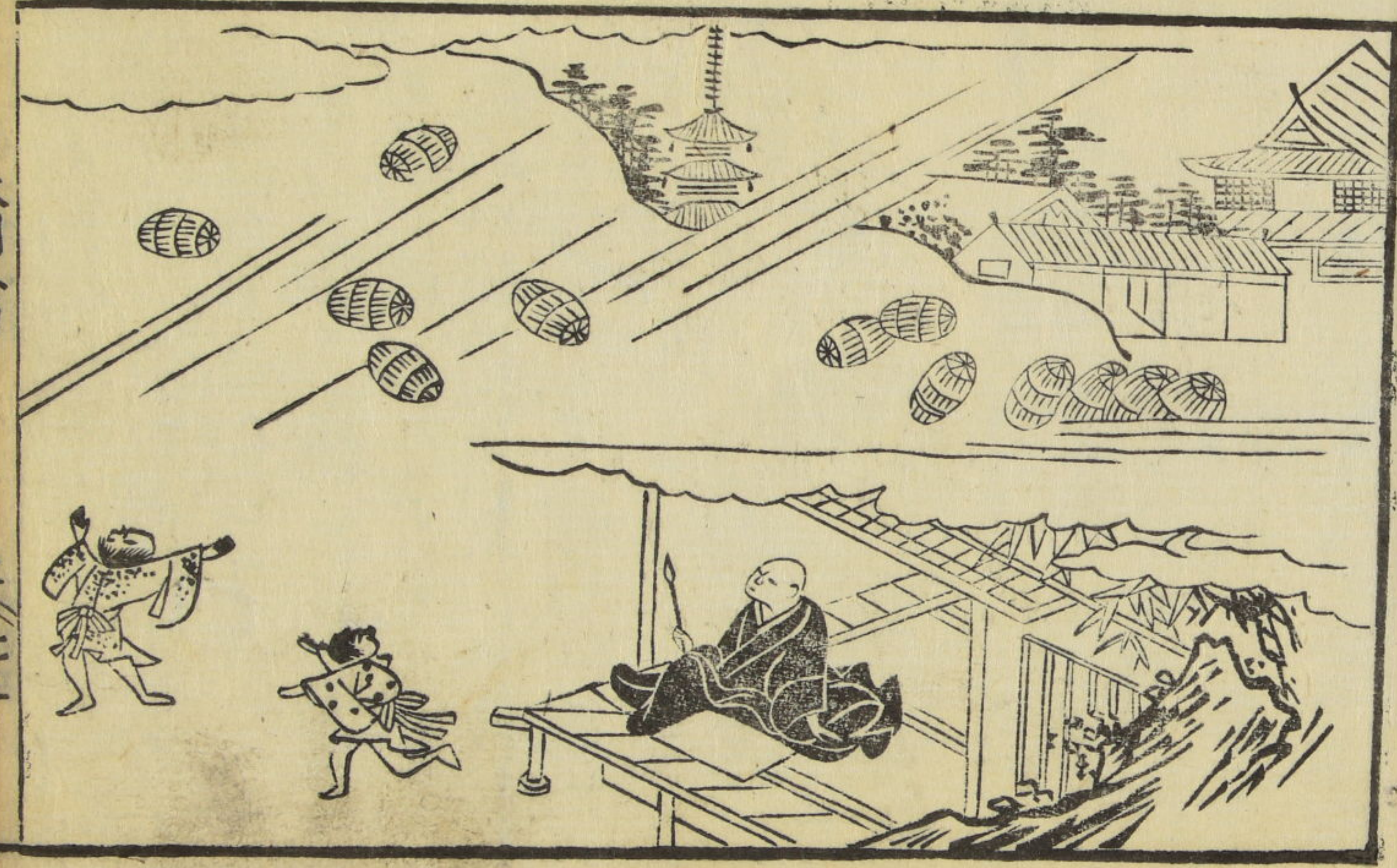
先 乃 貴納せり 是 聖主の

奸曲多り 是融戲遊に 兼依乃
風吹吹 庭をみひる かつる
とを ぬいて 是を 洞せり びる 上
小童 一依 然と あり 法の ごとく
小納め む 監主 是と 能り 又天
十二匹 乃 是 成 ぬ ぬ ぬ ぬ
と 坊より 今世に 法布 せら 後
是融ハ 龍 破 天 皇 其 末 裔 六 条 院
仁安年中 乃 人 あり

寛融印文



五三
小童 傳 心 律ハ 龍 後 三 島 家 小 船
流乃 一 員 あり 是も 又 小 童 傳 心
号す 屋 号 せし 号す 故 ぬ 是 融



吾得くこれなり
小川信正 律の承院横川長吏と
す安徳天皇貴和年中の入正
二位持政内大臣師出云乃子右門
忠重乃師たりとく云云云云
兼澄乃信正の父なり一説に
兼澄乃信正の父なり一説に
云云云云



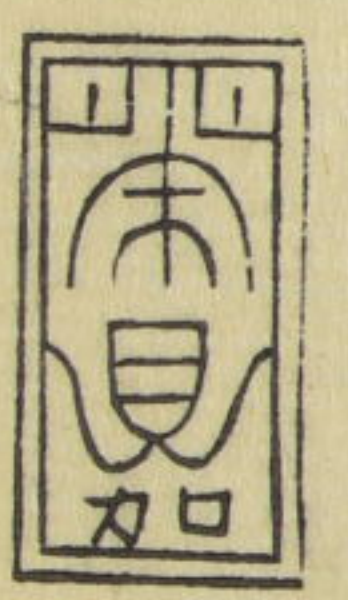
五五
兼澄乃信正 姓の原系を以て
信正を清流小住と云り希物
云々云々
時為云々

む根来用山光樓上人ハ兼澄乃
信正を以て云々云々
兼澄乃信正 姓の原系を以て
信正を清流小住と云り希物
云々云々
時為云々

任う二非乃靈徳の院
 こんどぬ上入ふんておん
 とすめぬ乃日凡眼ふこれと
 世は世々々々は笑言あんと
 志め一より志めてやま
 くはあつてくゆりてんを
 徳かえひそるんく徳丹ふ
 一かみんよりく系
 る河西山乃きりめく
 て死ふり上人乃都河
 毒りりりりあり今
 場鳴あわりのはえん終
 とゆめり
 毛磨勝かえ 法橋に叙す
 うくは院かありあが
 志猶任ふ云達久二年ふ新ふ

屏風と生り勝
 どのさむむを種字の
 大報主内者乃系
 毛磨業かえ 又業可と書
 小住す法眼ふ叙す
 が商らるる業かえ
 善美の三とと
 と書すま
 輝あ
 神
 和
 系乃
 院

栄賀
 印文



大月番印
 七
 八



佛師法慶 六三 又く仏像と云く
 源於終に形像のありては
 ちの想にて仁主神と修せしむ
 多の釈迦の像の法慶大安ち其釈
 迦と云くこれと云く
 通系冥冥に決て祀あり
 佛成也 六三 惠日坊と号す
 乃身子方り至也と好く
 法眼ふまぬが威の冠磨がま
 たり方り多くは像と云く
 て兼る也と好り畫を好り
 多山ちれ竟るあり

法師法貞 六四 天平年中の
 少くは形及びの種打の
 空 六四 少くは形及びの種打の
 住若法眼 六四 性法眼と云く

像人持仏多くは多く
 少くは形及びの種打の
 乃の状の福又高麻の中
 栗田は民衆に法眼 六六 律の
 光教院正慶年中の
 後所なり融通念仏の
 多くは形及びの種打の
 口其氏以て人の
 て多の少くは形及びの種打の
 國史小不謂法眼

より仏像とあぐくも此後所と
とり又金匱甲と云のれを名力と
おとれおとす

隆光

印文

西栗田口法肥

其法服琳賢 南都赤大寺乃

流 世ふれと法服と終す

南都興福寺赤大寺小寺あが
く不招引 去日安居乃成

ね撲乃節去乃庵風をこれ小
もくこれ去日此後所

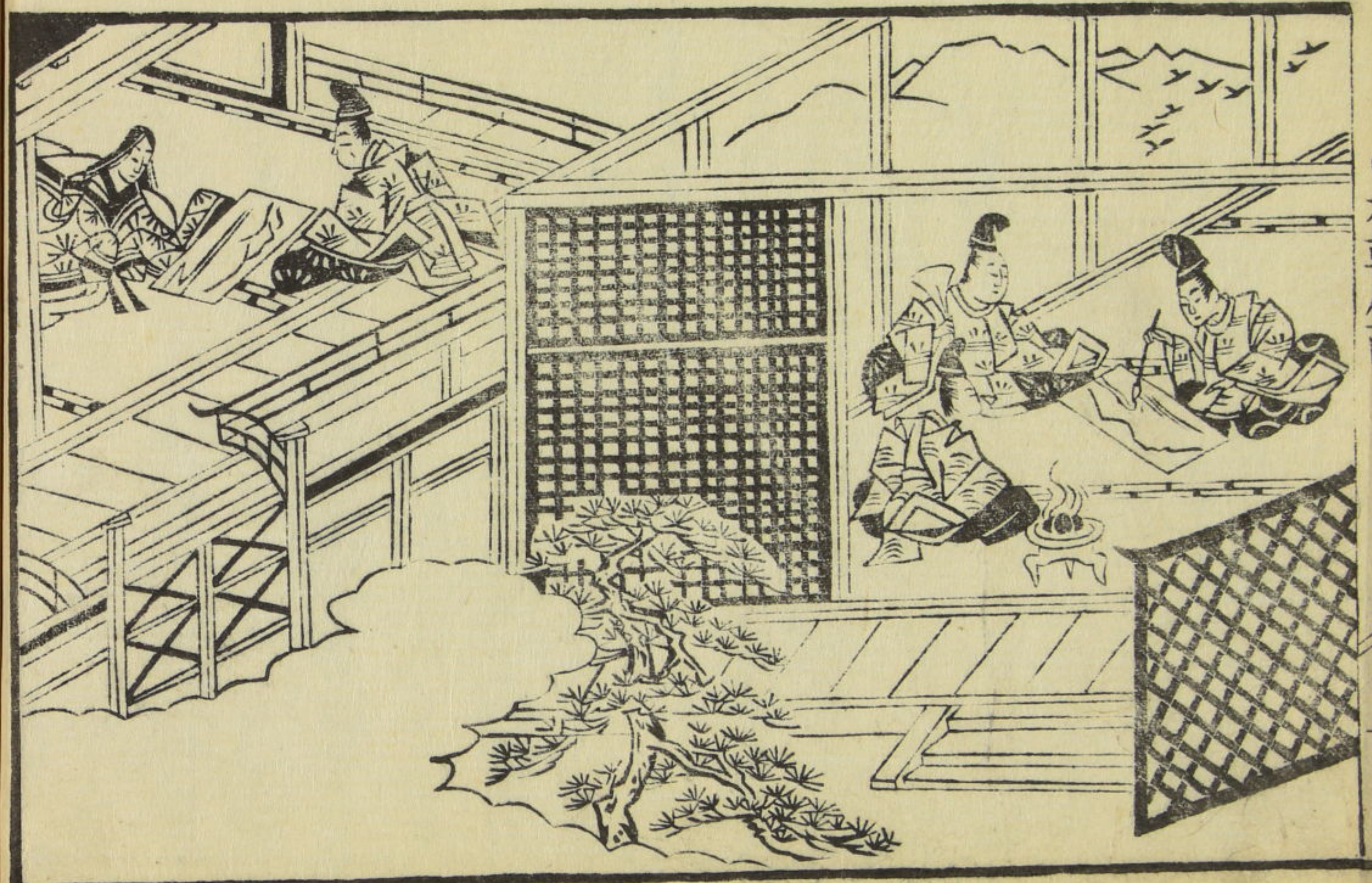
二あり一日辰龍火矢ふあり



西栗田口法肥

高秀のつれてまゝ色にあり服瓜
 付く處おれ煙を成んく初めの
 ころしておろしつりお知れお事り
 てまぬとて入る今さういひお焼
 乃たれのがり成るれが成るぐ所
 の不効なるれが美とえりこれ
 置て大業小あしとやとての百子
 成り焼たはひいひのおかきぐ
 とつり後世あしとてとてそれお
 効とりのあしとて奇物とす定治
 辛 積きよあり
 赤甘玉 性温あり法性上人一々
 洋ととるころ又とる大所とて
 見解とて後世とてとてこれ
 入るおととてとてとてとて
 つまらぬ大所乃とてとてとて

是とてとてとてとてとてとて
 毫末もとてとてとてとてとて
 ととてとてとてとてとてとて
 形り久乃とてとてとてとて
 大依局 性温あり法性上人一々
 女あり女性とてとてとてとて
 山下法金とてとてとてとて
 文あり大依局とてとてとてとて
 乃地とてとてとてとてとて
 文紙とてとてとてとてとて
 形とてとてとてとてとて
 報来とてとてとてとてとて
 原とてとてとてとてとて
 ぬありとてとてとてとてとて



古今義用集小あり

ト有 宗水と号す 東大寺に縁

起とあぐ 琳賢と時次同くす

きけり 東大寺乃後所り

定祥 法橋に教す 海陽七条小

作と申 教も元祖親香上人乃

傳紀小裁り 入西房上人小らふ

別定祥とてそ 志成あぐり

七九 今中ちん 世はまり

傍津 法服に教す 佐列康未

ち小形 始く 親香上人の乃

状とあぐ 書を 書り上人乃

後免如上人あり 未ちれ 傍津

と傳りて 後傳や云 津あり

松尾上人 和州般おる乃 傍り

性愛とぬめり時不興福の意
み愛は其好性よく其人これと
長上人不勤乃係と後堂乃係
破ふあがのくそ後好性よそ方

公小淵英一なりとありん
於江上人 しく魚家とあり

始ハ赤山泉涌寺小住一又後山
經く後堂聖小美云宗の生長
とありてまゑ乃一流とあり
常小不勤云成修寺又一とあり
勤派多く持母教を中と兼
法宅磨住吉少とあり世小於乃

全上人乃不勤と稱たり
介法橋 姓名詳不ありす橋列
住一乃人ありしく仙傳とあり
そ後小云遠長六年とあり介り

子瓜庵と稱一菓子屋能と

全てそあとおあり
日蓮上人 法名純實塔不乃あ
とあがれより世小日蓮乃多と稱

一これ宗乃不有り 彩色細英と

命格ありそ外不難屋わすす
大慈心 姓名詳ありす日蓮大

慈とく大黒天の傳とあり一先
後修瓜と小かへる物性とい

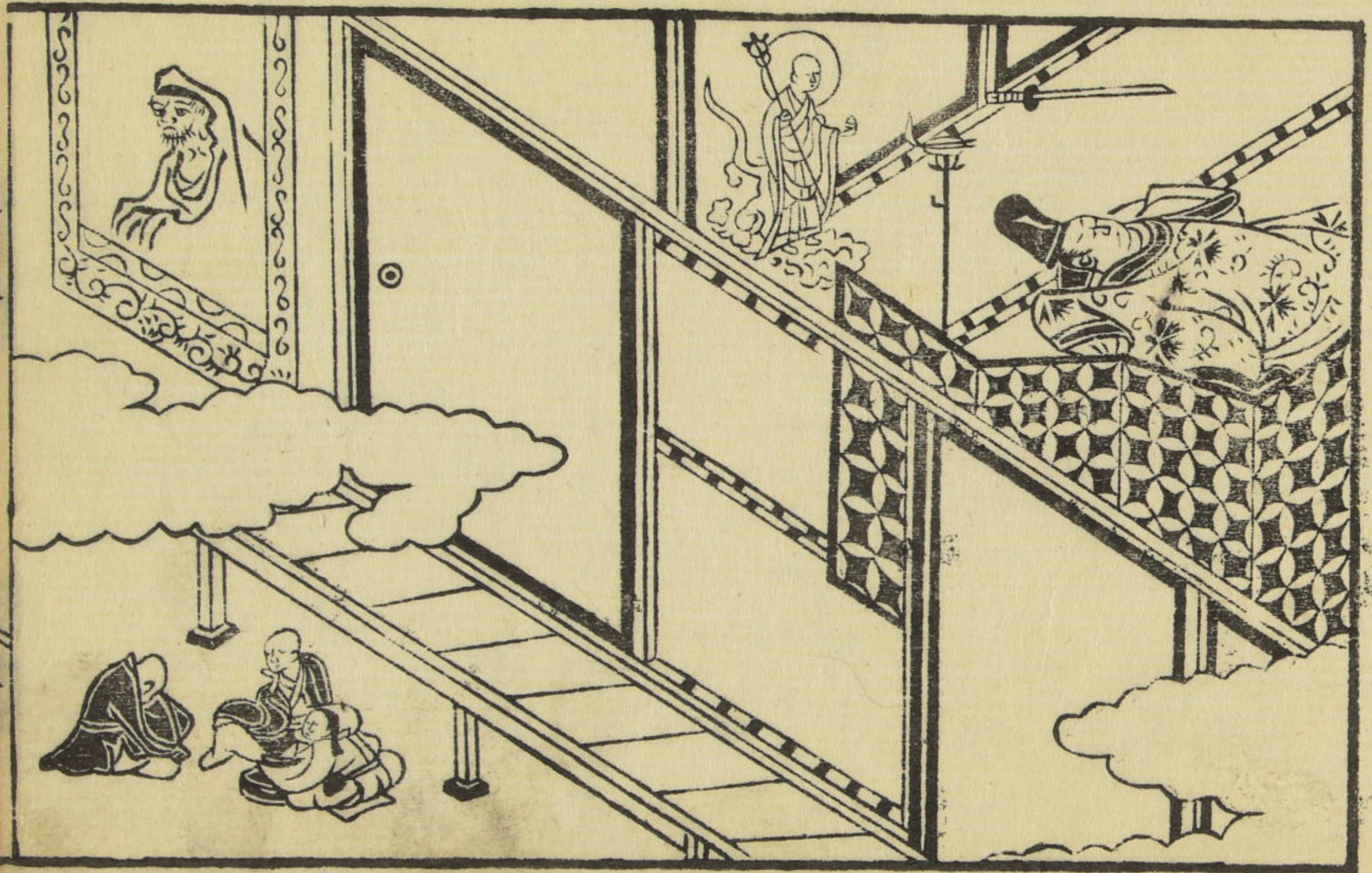
これわり又日蓮自傳より自
契しそ物もこれを或ハ天祥の

傳と書らる物もありこれわり
蓮江 書之六節と兼判賢と

道行とあり永仁六年の住持倉
乃そ族は道行とて度氏善經
和尙乃傳とありめ又云橋本傳と

無性房小わくふまのり状乃末
 小みくよりい畫惣大和招提寺乃
 實房小わりの筆法へ毫石より出て
 稍優柔あり鑑書如高の来物乃
 信あり我ふ乃風款も中毫小は
 多る多る放小中毫中乃乃
 矣と書す

圓作 法眼小ぬす正安元年小
 糸乃場一色と人乃鑑起十二
 と多ぐ筆法毫乃作小ぬせり
 も山川樹石形雲糸熟意味わ
 全まりる物あり
 文眼信正 しく龍眼乃徳成多ぐ
 又慈母天師の像と多ぐも筆力
 多ぐあらず又外より龍目と見
 ずり状ハ左平記並小伝ち縁起と



公タカウチコウ 号持院と号す光明クワウミョウ
 院リヤクコウ 号持院と号す光明
 改勢乃昭書皇と好むを忠義
 平日比産塩と依一差中乃感
 て産塩乃忠徳と一自一自一後
 相成加へふも皇徳とく世小成
 又産皇乃自皇自徳と皇皇成
 一これとありす

親應二年

六月

尊氏公
 書印
 仁山書
 因

分フシゴ 及法橋 姓名伴りあり
 光玄阿宗梨 皇太子とあり
 紀不見あり 何伴の人とあり
 九カ 波守仲氏 皇太子何伴の人
 とあり
 九カ 惟久 姓氏とあり
 九カ 康房 姓氏とあり
 九カ 保康保 姓氏とあり
 九カ 伴一十二天乃徳とあり

粉彩乃具の吳よりりりめく
歳を以てまけりあり
系統論 公佐ちて恒を恒に

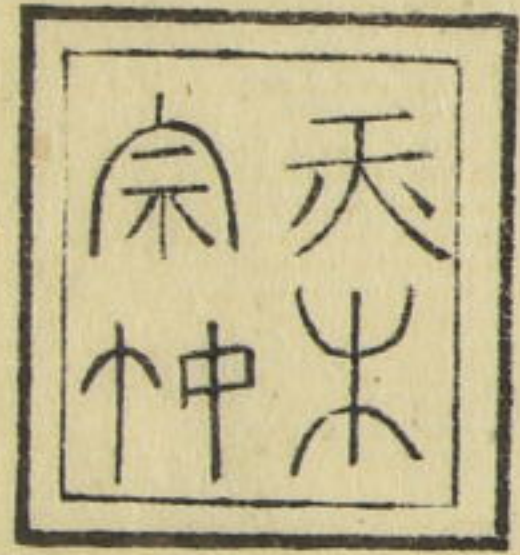
位下小叙す後所とあり公佐氏
乃元祖たり後澄が子仍光統
公小恒す文延六年小後所とあり
仍光が子光主越前守恒と明
徳元年小後所とあり光主が子
廣月公佐す小恒一彈正忠とあり

永亨十一年小後所とあり
公佐光恒 廣月が子なり光恒
系乃氏族之れ是より後代
公佐氏之官小恒す故小世傳
て氏とす後所乃仍り後小恒
大指小恒和皇の法良也小丹切氏
急ぐく古来和皇小恒るを急る

公佐氏門光猷宅乃恒を名はる
され光恒が皇孫光宗と皇統
て是とゆかり細糸織藤雅兼小
志くもくく巧如と極めり奇
書系紙の祖氏を以て官院園席
乃既尋とあり後去れ皇を和
皇小恒ひくかありすを指氏
用ゆ又いを世より乃爵後衣服
乃建後名も色を皇法小あり
爾ゆり光恒光恒和皇小恒るを
後光皇院永亨年中の人心

光信

印文

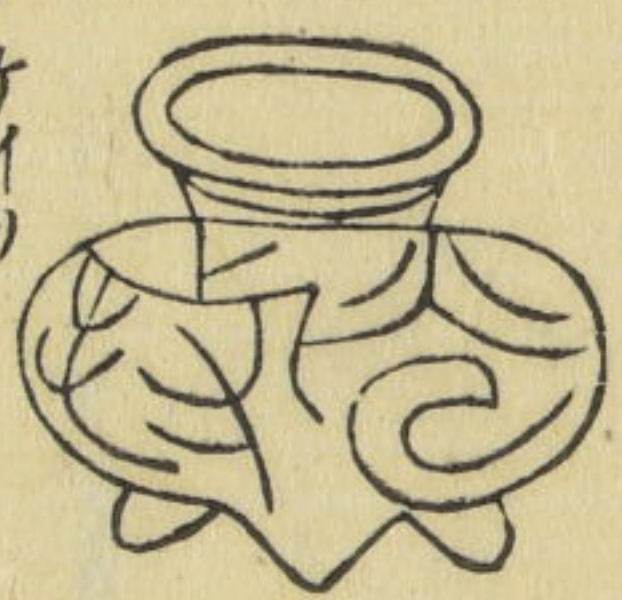


公佐先代 光恒が子なり
永亨十一年 公佐氏
系乃皇孫大指小恒 公佐

と通く右に於ては小松院に於ては
 下小松院す高麻七乃孫部氏志
 ぐ内情知りて之を規程とせ
 こ小す又傳ふ云光重の子孫部
 お猶といふ子孫部一と後續が
 一光重の女孫部一と後續が
 此故小松院に於ては所の部と
 あり又其長年中小松院に於て
 と云ふあり泉別境津小松院
 志と云ふ業成をせりけし去作
 家乃氏族の是也祖家乃規
 縁とせり此傳承あり今系師
 ありと云ふ去作氏と稱する志を
 此家傳より知るべし
 光持 系師は光重の父とす
 り廣用が実存のいま可也

と云ふ後小松院に於ては年中
 乃人とき

光持
 印文



お保 光重の傳承あり
 田家女とせり書置たふり
 後小松院に於ては年中の人

相保

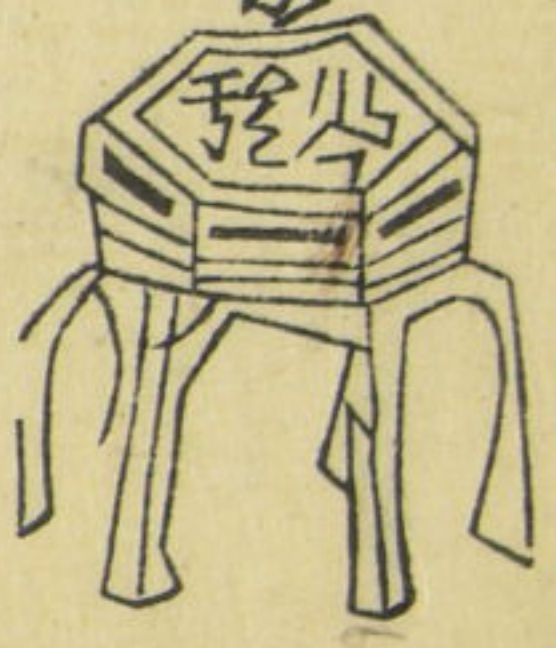


修理 光重 道徳

不見多記あり
 光重 去作の傳承記不見なり

印文

將監光起



蓋^直継^{ツク} 氏姓とあらず但し去

作^テ遊^ユ志^シ流^リりあらず私^シ魚^{イサ}乃^ノ物^{モノ}なり

と本^ホ傳^{デン}にあり十二^ニより乃^ノ馬^{ウマ}於^ニ又

今^{イマ}乃^ノ業^ノとあらず必^{カナラ}あり後^{ノチ}より

威^イ蓋^ゲとあらずのれたり

去^直作^{ツク}光^{ミツ}蓋^{ツク} 光^{ミツ}信^シが商^{シヤウ}なりを家

とせとあらず

去^直作^{ツク}光^{ミツ} 光^{ミツ}信^シが商^{シヤウ}なり信^シ不^フ

為^{ナリ}監^{カン}とあらず判^{ハン}發^{ハツ}とあらず信^シ不^フ

光^{ミツ}とあらず法^{ホウ}なりを家^ケとあらず

てとあらず業^ノ力^{リキ}とあらず光^{ミツ}信^シ不^フ

くはぬれ信^シ不^フのれたり

又^{マタ}妙^{ミョウ}なり

去^直作^{ツク}刑^{ケイ}法^{ホウ} 偉^イとあらず信^シ不^フ

もと信^シ不^フあらず信^シ不^フなり

大^{ダイ}極^{キョク}法^{ホウ}とあらず信^シ不^フなり

ぬれ信^シ不^フなりとあらず妙^{ミョウ}なり

のれたり

中^{チウ}世^セ蓋^ゲ之名^{ノナ}不^フ

去^直外^{ガイ}和^ワ尚^{シヤウ} 偉^イ尔^ニ信^シ不^フとあらず

國^{クニ}師^シ乃^ノ子^コら美^ミおちれ開^{カイ}基^キと

去^直天^{テン}性^{セイ}よく蓋^ゲとあらず

備^ヒ可^カ辨^{ベン} 宗^{ソウ}姓^{セイ}とあらず又^{マタ}信^シ不^フ

号^{カウ}す南^{ナン}浦^ボ紹^{セウ}明^{メイ}乃^ノ子^コ屋^ヤ堂^{ドウ}の

法^{ホウ}孫^{ソン}なりとあらず毎^{マイ}小^コ妙^{ミョウ}なり

乃^ノ寧^{ネイ}一^{イツ}山^{サン}乃^ノ契^{ケイ}とあらず

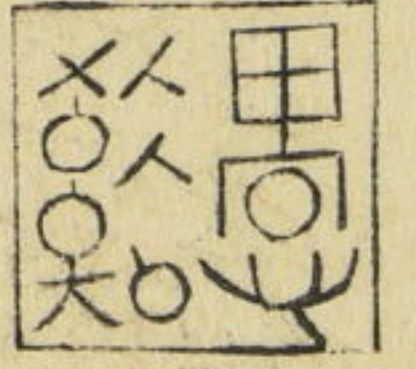
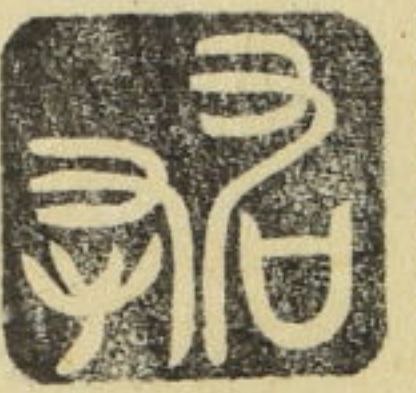
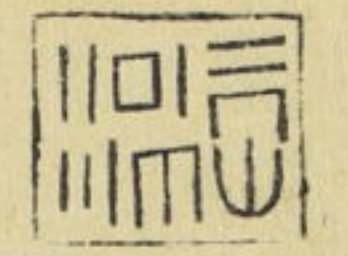
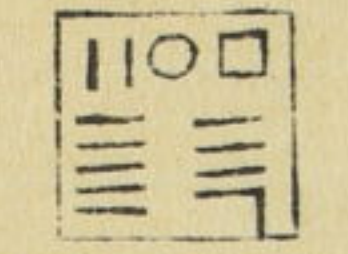
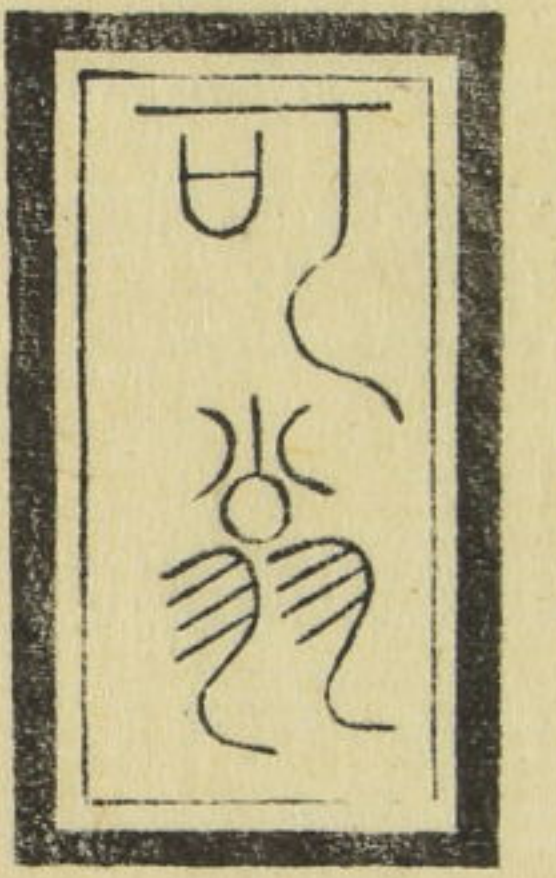
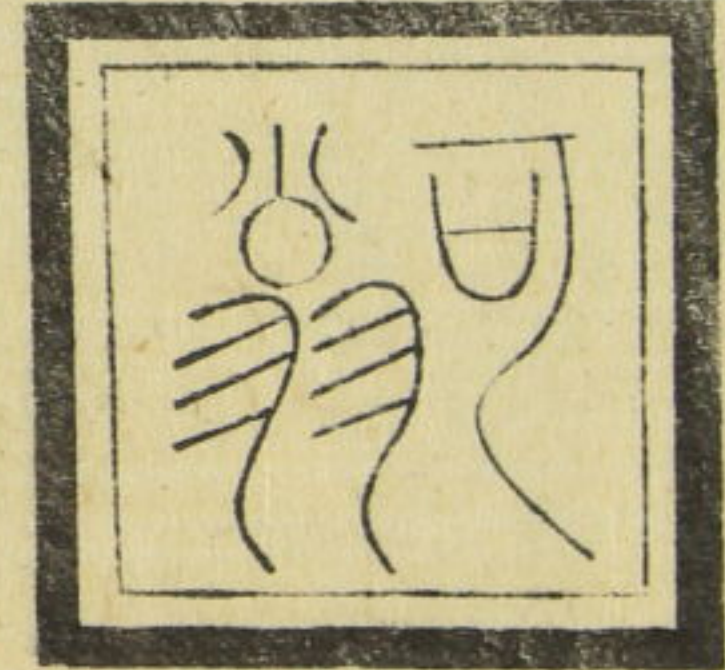
海^{カイ}西^{セイ}人^{ニン}良^{リヤウ}全^{ゼン}他^タとあらず

仏^{ブツ}像^{ゾウ}仙^{セン}人^{ニン}乃^ノ妙^{ミョウ}なり

乃^ノ妙^{ミョウ}なり

せまのひまき書ハ牧溪とまのひ
 ちのく有法と極む故小雲書ハ
 善中より世人修く牧溪乃志
 ぐく雨とす又傳小雲宋小令
 物乃後南孫志小徑と或ハ又
 生國統授人信名良詮と云々

可翁
印文



文和年中乃人なり

墨多和尙

字ハ因慈養院園師

乃才子達長るれ任とる雲後ハ牧溪
 と云々花を竹石とよくす亦力

見起意あり

織舟和尙

字ハ徳海養院宗師

乃才子乃壽寺小住す候織舟宗
 悦乃開基たり登ハ山あり花もふ
 長一と云々よくす亦力

早のりまされたり

おまのり傍たり登志

美相ありと清休八景と云々

菜園ありと氣歎五信子達西堂

もおまのり傍ありと別居之席

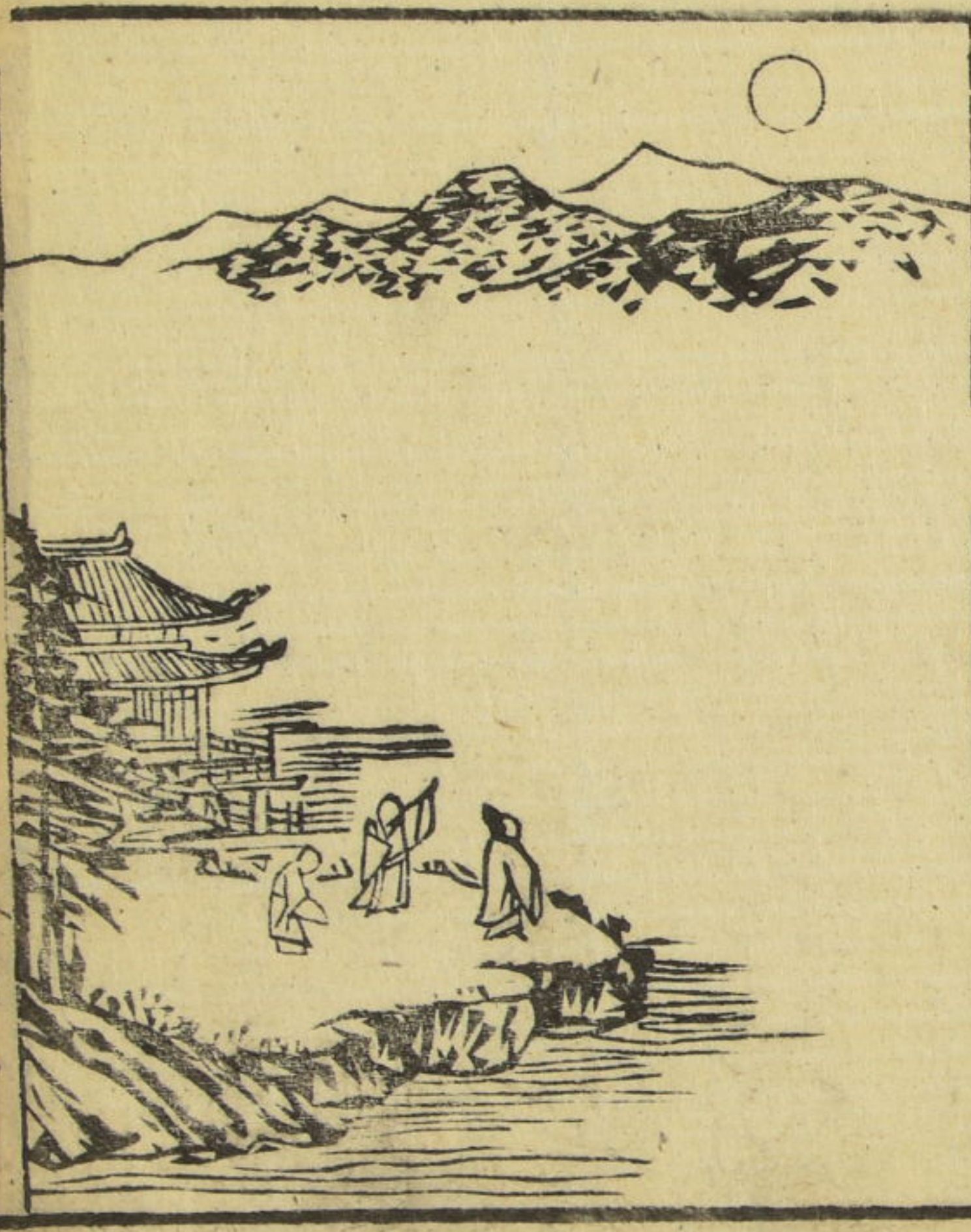
とより同り久り候と云々

先自空江易断魂
潇湘夜雨
孤燈蓬裡聽簫瑟
凍雲粘雨濕黃昏
祇向竹枝添淚痕
私心家淚何處
なきおれあはれとまじり
と家宋小我知家



洞庭秋月
西風剪出暮夫霞
萬頃煙波浴桂花
漁笛不知羈客恨
直吹寒影過蘆花

穠
小和文天
ひさしは眞津白波



雲 遠 寺 晚 鐘
 設 鐘 聲 猶 遠 近 風
 此 言 只 在 此 中
 高 言 只 在 此 中

善 妙 妙 妙 妙 妙
 人 也 妙 妙 妙 妙



鷺 遠 浦 歸 帆
 潮 平 銀 浪 接 天 流
 歸 檣 漸 入 蘆 花 去
 家 在 夕 陽 江 上 頭

風 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子



山^カ市^シ晴^ハ嵐^カ
 竿^サ酒^サ旆^ハ斜^カ陽^カ裏^カ
 數^ス簇^ク人^シ家^カ煙^カ障^カ中^カ
 山^カ路^カ醉^シ眠^シ歸^ル去^ル晚^カ
 太平^カ無^ク日^カ不^レ春^カ風^カ

松^ノ多^クか^ハ江^ノ里^ノり^ウ色^ノ水^ノ
 小^ノ祿^ノと^ハ秋^ノ々^ノ虎^ノ江^ノ
 志^ノ川^ノ心^ノ山^ノり^ウや^ノ乃^ノ多^ク

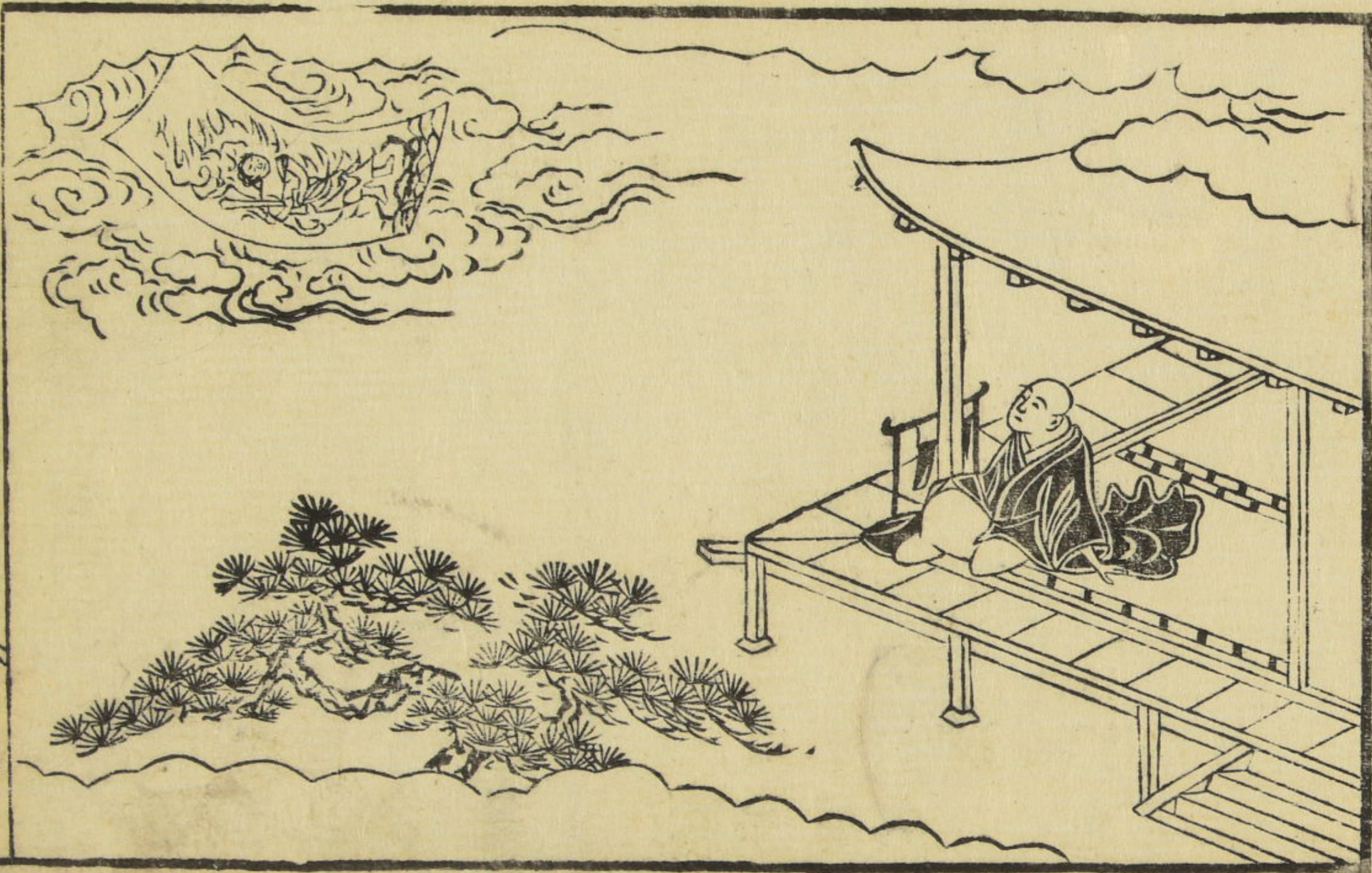


漁^キ村^ノ夕^セ照^セ
 薄^ハ暮^ホ沙^カ汀^カ惑^マ亂^シ鴉^カ
 江^カ南^ノ江^カ北^ノ閑^カ魚^ノ蝦^カ
 呼^コ童^ノ買^ハ酒^サ大^カ家^ノ醉^シ
 卧^シ看^ル西^ノ風^ノ舞^ハ秋^ノ花^ノ

浪^ノ急^ク心^ノ入^ル見^ル此^ノ河^ノ水^ノ
 於^テ乃^ハ元^ノ之^ノ磯^ノ際^ノ
 々^々さ^々木^ノ深^ク乃^ハ宿^ス



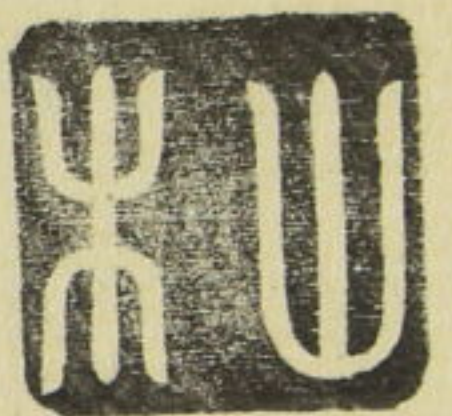
叔澤和尚 皇 偉ハ月沢或ハ龍嶽
 号す多々惚國原乃キ天子天竺も素
 寧院小住す仏天子登々々至欲死
 と發一竊ふ怪流擁護乃可ゆせ
 彩一々々忽ち一紙風小住くひら
 此の坊門これとこれハ不効乃傳あり
 されり毎日不効乃傳と云ふ
 百日百言と云ふ廿二年を約一日
 とかす其終もかろく物知く其言
 出小用くぬ沢乃不効と稱す又
 曇後乃蓮磨あり牧溪新輝
 とまづり
 情梵 皇 玉瞻子と号す又知足
 行と号り又梵と林と書り是と
 と一も終も乃云座ぬ能の也子
 かりの書懐ぐ多法とまかび宗記



乃州を多とほりり多くふふ
かめし時の屋上ふたす
同業とすすめく物乃塚とく
ふ乃屋と見えぬ牧溪乃風あり又山
あり人物乃及及び新多其物成り
と業竹乃雲後のも物志小紙出
せりこれたり後小松院應永年中
乃人たり

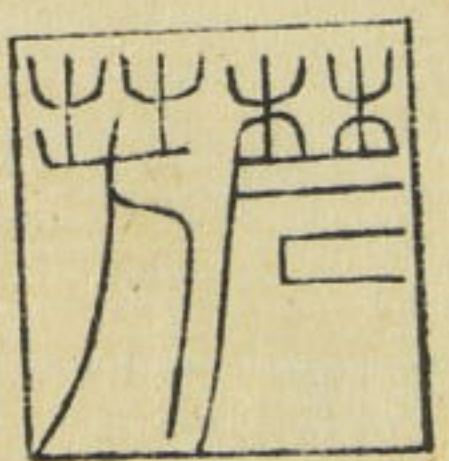
玉畹子

印文

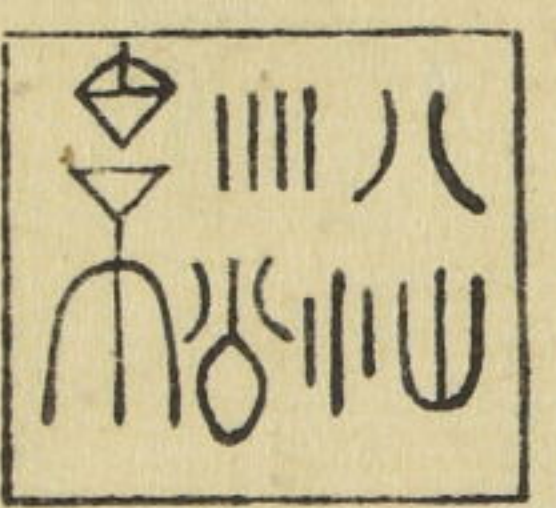
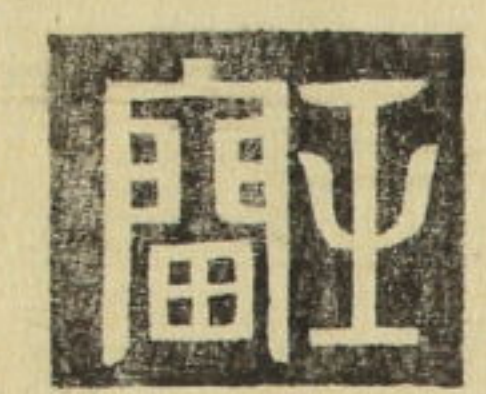


玉田死子

ひなふたす可余



玉智子戲店



右大いふ字の幅を寸する
鉄牛 百十三
玉畹子乃及及び方り相

國古乃信又よく業と急ぐ
仲安和尙 百五
偉梵師又竹天竺と

号す善の法師乃及及び常必不
物言及び大黒天と急ぐ業法牧
漢と急及びくも草筆の急と

小勢くめ徳六年十一月前天竺
松在梵師後を急ぐ或ハ不物言
と急及びく書板不書す日永年

梵師為忱慈金身寫之
 僧の地 兆典子あり又吉山と
 号す法徳の人あり赤福寺大乃
 乃成子と彫る如年より至是成
 ぬく甚く此師者小かお守己よ
 師者乃約と終せんときり何處
 至是精妙の舞藝成乃師
 これ小琴くさるるを此小伏
 それよりゆりてこれといふ
 とありを此法及此乃像の
 李龍眠とまひ又元乃龍輝と
 小の法は小を是成と用ゆ
 此法乃とて天懐自得終
 て神小入とて氣元乃其あり
 くとおるれとて山ありを
 此とる小ありとて大仏像人

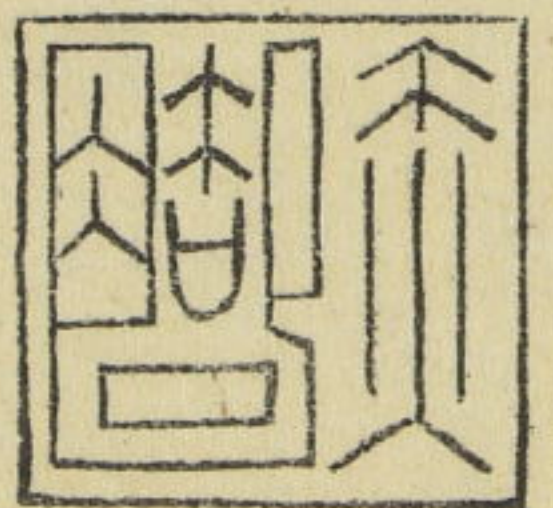
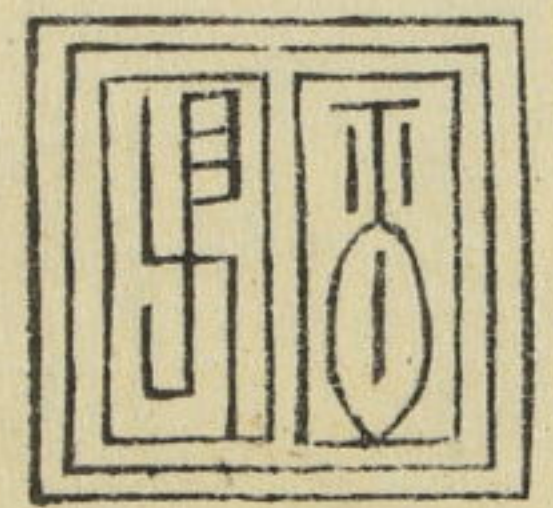
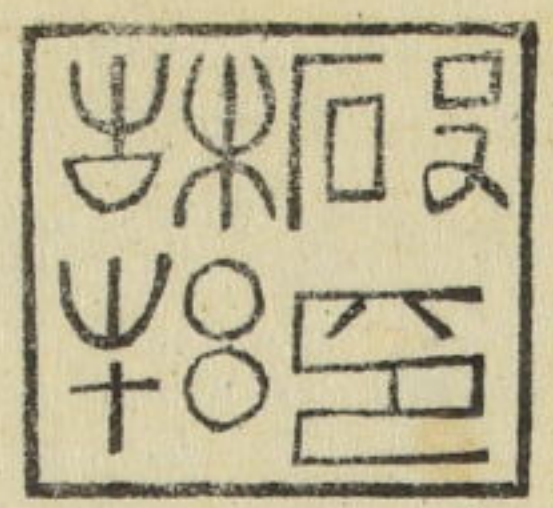
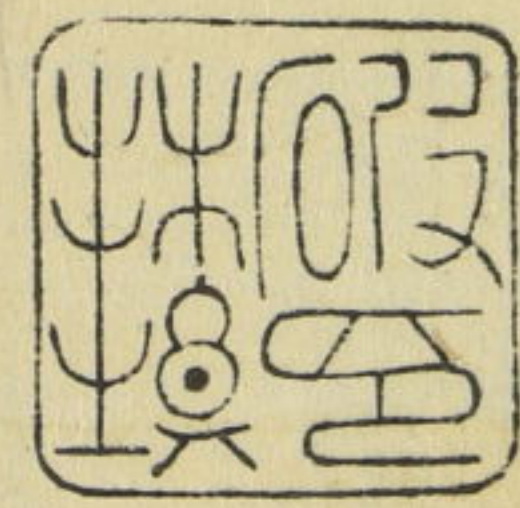
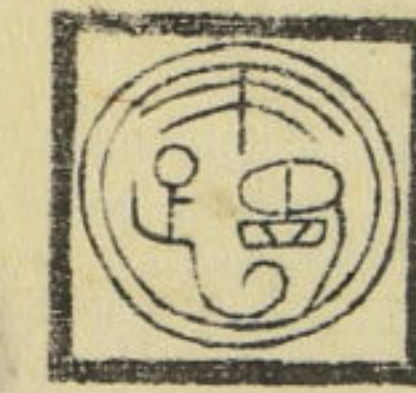
也小おのくの世本約有一乃名
 畫よりとて多く大福の物多
 一とて規成制一の此
 龍統翔鳳乃とて赤福寺小
 涅槃乃志像ハ横式丈六尺
 又百羅漢乃志の志とて龍輝が志
 此とて小の経念建長寺小
 此と秘法と明此これとて
 赤福寺にあり其像小多く物あり
 其學女乃本果の今常不庵小
 つりり以外十六羅漢乃志四
 八祖半が小幅乃像を山格均聖
 圓師乃像たの洪揚たの帷幃三
 幅射丈神より正面連座乃像
 正西白紅觀音の像今現此これ
 仏及乃板門觀音の像法雲天并



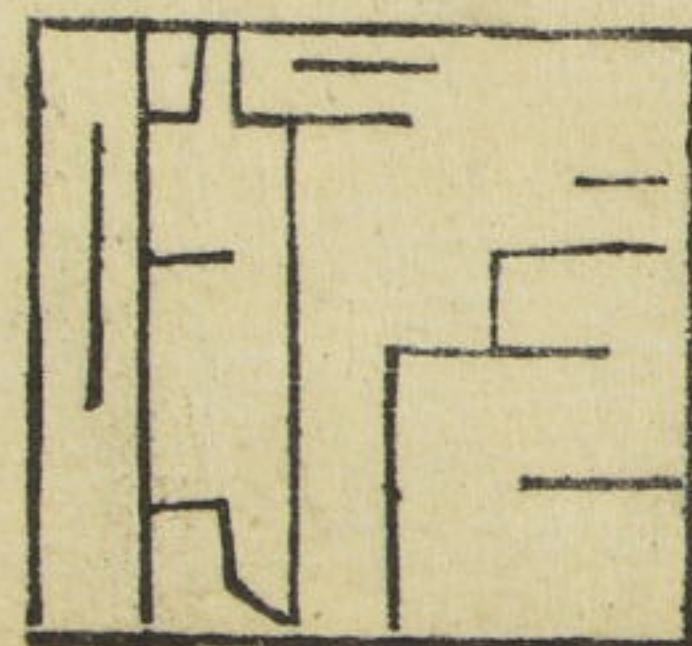
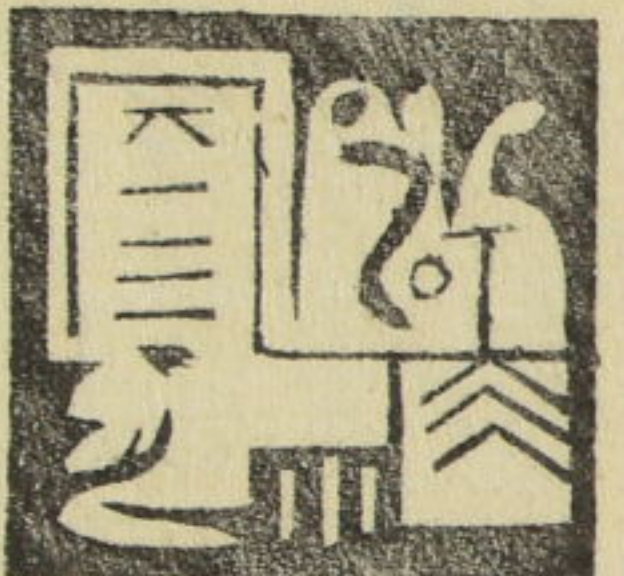
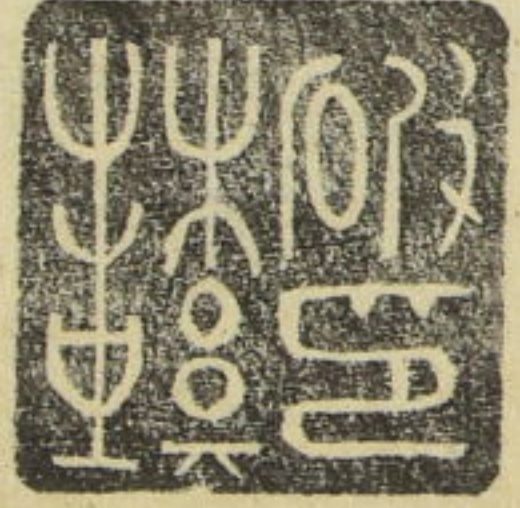
の樓於長十仔文ありは就くめ
紙面にあがて天井ふ押さる人
旁面みりる年と終くあはく
ら暴風ふやぶられ斥くと飛揚
しく回おに失たせりま海所も又
今常示度ふありとんれそち境
天井乃幡航への信紙ゆて授樂
とらるく勝定院後持云に実をせ
られ佛造乃情素とのぞく大まら
ると感慨せめち門の制とあり
とめたりとあり異傳ふも亦福も
南の院乃怪別名赤脚子破系鞋
宗的とあり後光教院女和年中

兆典主

印文



明兆筆

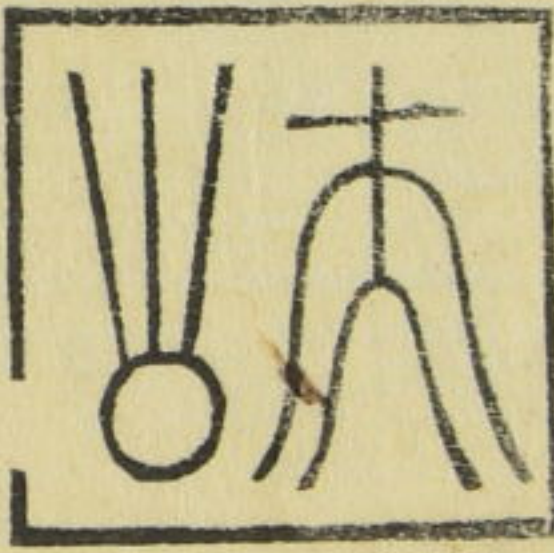
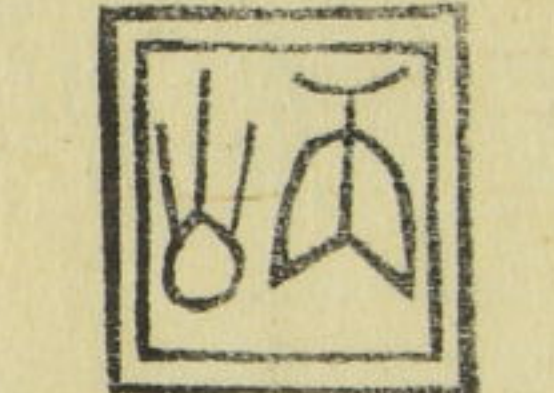
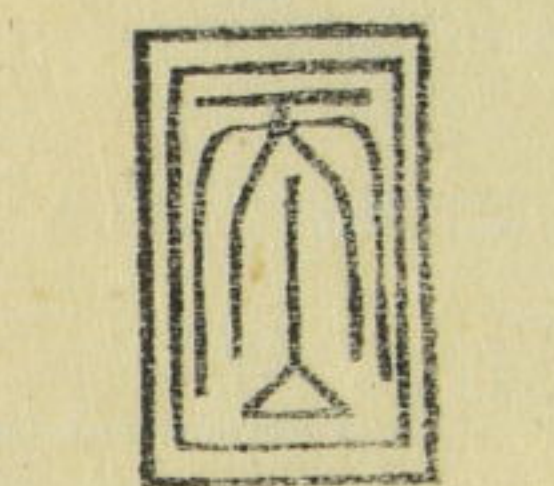
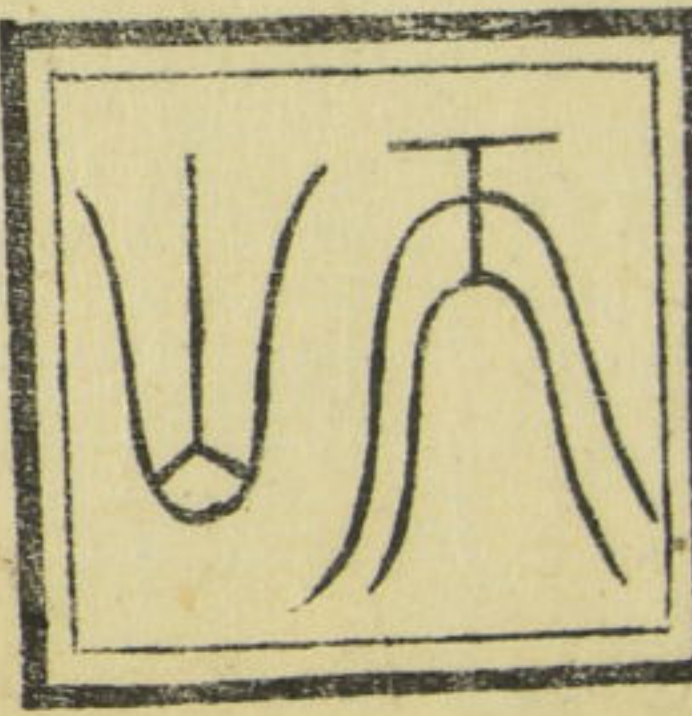
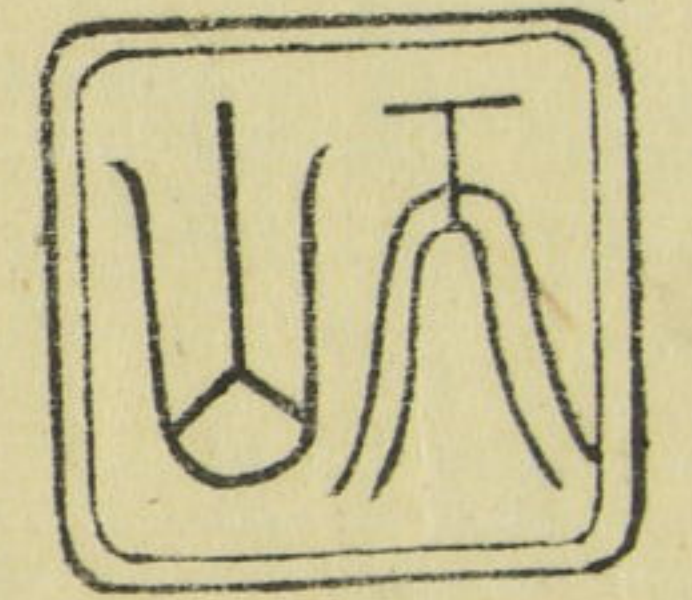


備一之 百六 信託主や移すの能
小はく書瓜是なり一之が加考

我終其おが属るび用ぬ秀
舟うおとそト下わり別傳に去
東山原澤天山と云後花を臣
多徳中乃人あり

義政

印文



お置ふはるありまかこれねる乃
歌集しゆふ乃置置たり置
原乃平と云い此あり云乃平ふ
い置るゆいころあり

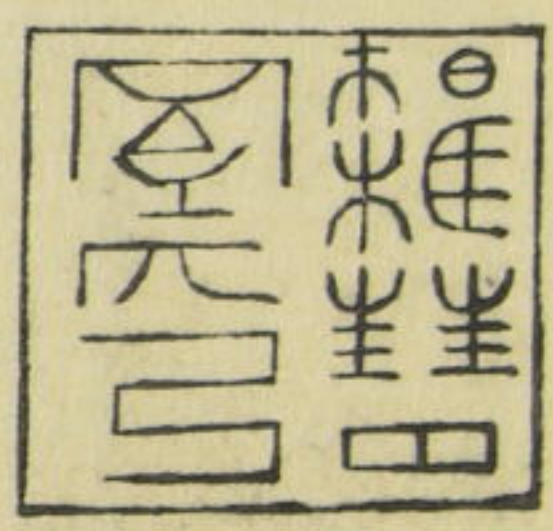
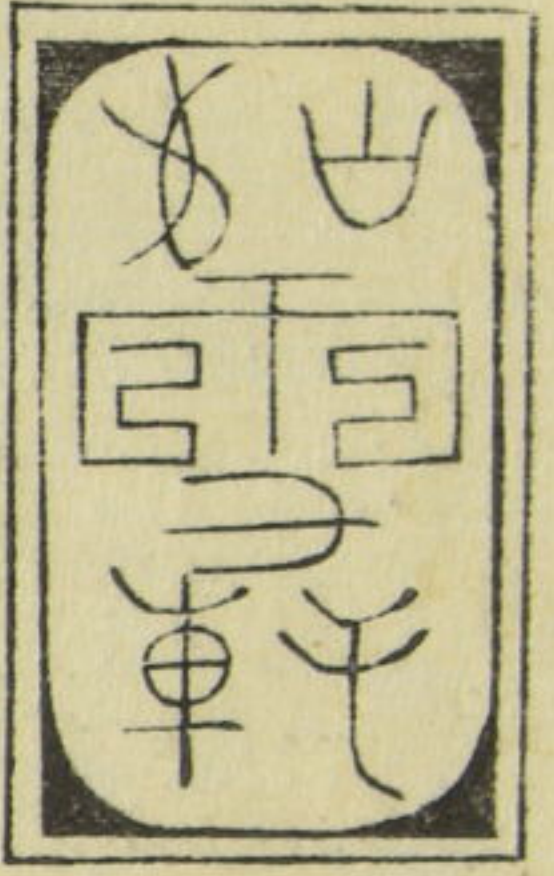
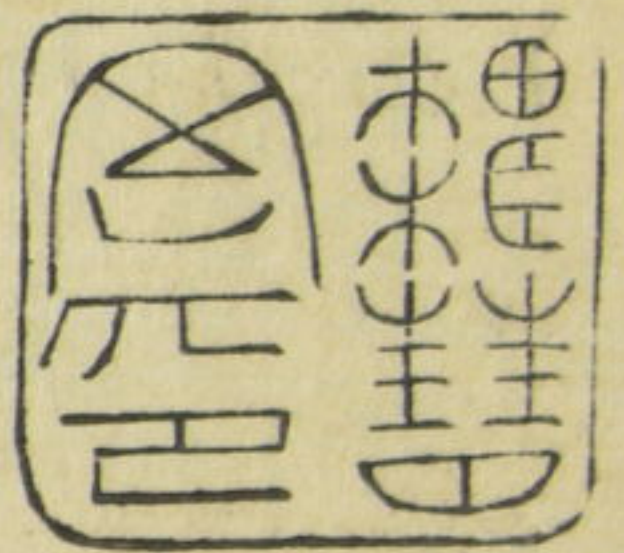
傍多主 又赤柳子と号す

又赤柳子と号す

福もみ居すの世と原とてとく
仏像人拙成るぐ終不世小及がす
物れをまき此ふるより赤福山の間
上樂策乃思ひを典まが策とる
取あり友傳不世典まが居と赤柳
又と程せりぬれり是ありるゆと和
一休和尚也 澤へ系絶と号す大徳
寺に不世云意波小副法す後小松
院乃三子ありとあり後乃小松の二
景ありたりと云うきいばるせりる
とあり徳の秀徹の措とつとつ
らばる我地是と原とて置を
多置りともとる道程あり山あり花
有人物と号すありと 親法親
乃多置る出果たり 兼室法親と

如雪

印文

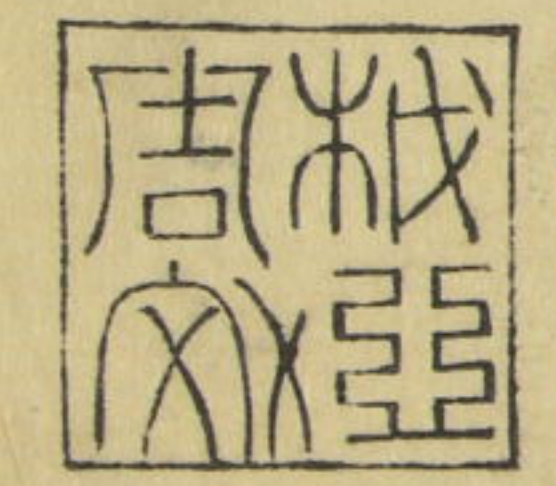
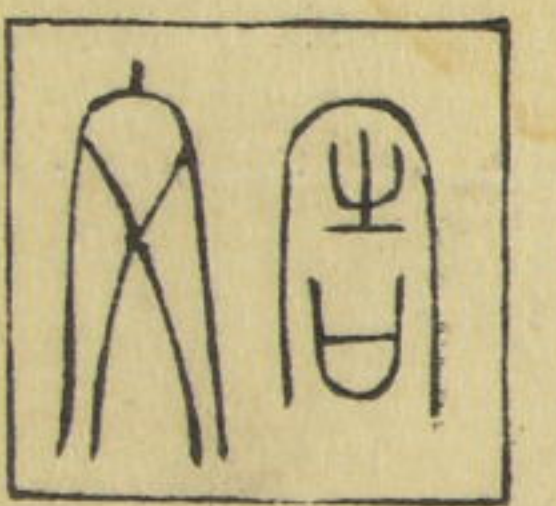
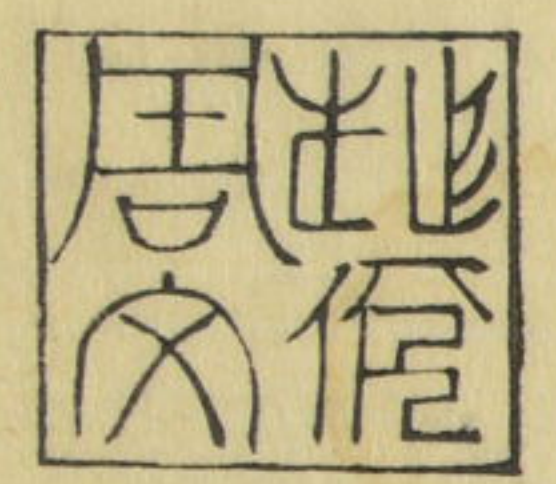


備用多^百又^三去^三音^三と^三お^三困^三と^三は
 る^三く^三故^三安^三と^三あ^三る^三元^三ハ^三生^三ハ^三世^三傳^三ア
 け^三り^三出^三家^三ハ^三全^三カ^三り^三又^三越^三仙^三と^三号^三す
 又^三越^三侯^三在^三ま^三り^三ま^三り^三又^三小^三越^三侯^三
 用^三多^三と^三く^三る^三ハ^三列^三山^三上^三永^三源^三其^三樹^三
 越^三侯^三カ^三り^三故^三あ^三り^三く^三ハ^三小^三越^三侯^三と^三る
 ゆ^三ハ^三これ^三と^三稱^三ま^三る^三と^三ハ^三如^三雪^三侯^三と^三
 又^三く^三授^三辭^三ま^三る^三と^三ハ^三藍^三と^三號^三ま^三る^三又
 災^三あり^三侯^三移^三乃^三山^三あり^三地^三花^三多^三り

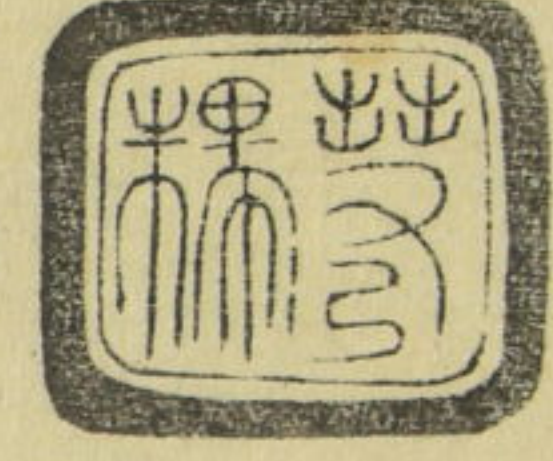
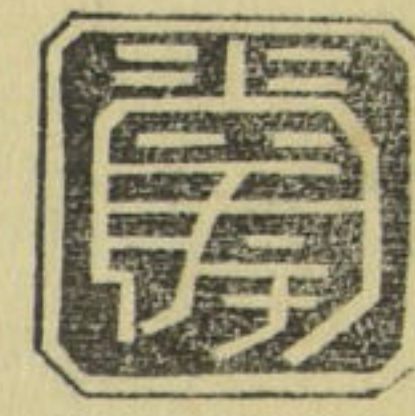
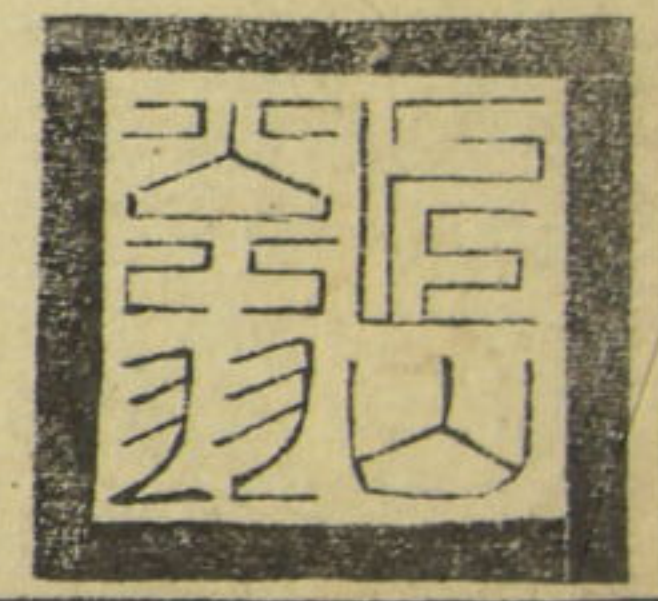
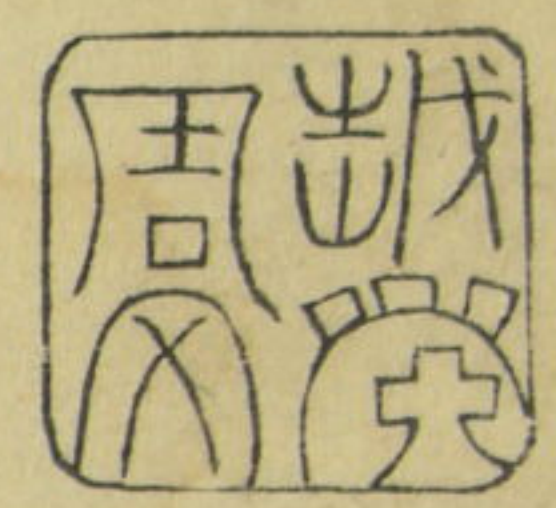
ま^三か^三る^三ま^三る^三又^三越^三侯^三輝^三り^三は^三と^三ま^三り
 長^三屋^三ハ^三牧^三侯^三ガ^三奥^三と^三越^三侯^三興^三侯^三移^三
 乃^三ハ^三小^三越^三侯^三又^三小^三越^三侯^三の^三と^三眼^三小^三越^三侯^三移^三
 と^三眼^三ハ^三畫^三中^三乃^三ハ^三三^三味^三又^三多^三り^三也
 又^三ハ^三小^三越^三侯^三の^三と^三眼^三小^三越^三侯^三の^三と^三ま^三り
 和^三屋^三と^三用^三ハ^三す^三と^三世^三傳^三亦^三小^三越^三侯^三
 越^三侯^三ハ^三先^三葉^三又^三周^三侯^三と^三の^三と^三ま^三り
 越^三侯^三と^三の^三と^三ま^三り^三又^三乃^三ハ^三雲^三小^三の^三と^三ま^三り
 り^三と^三ま^三り

周文

印文



本朝蓋印
五十九終



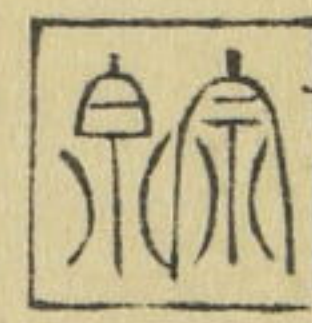
周文



宗泉世百
如者才子
周文法眷

宗泉

印文



上卷終

